

社会福祉法人 青祥会 年報 令和元年度(2019年度)

年報 2019



社会福祉法人
青祥会

SEISHOKAI

社会福祉法人 青祥会 年報 令和元年度(2019年度)

年報 2019



社会福祉法人
青祥会

目次

I はじめに	5
II 法人の概要	9
III 第2期中期経営計画	19
IV 事業報告	23
V 委員会・部会活動	33
VI 教育研修・外部表彰	47
VII 行事	51
VIII 数値・統計データ	55

わ げん あい ご
和 顔 愛 語

にこやかな顔

やさしい言葉で人に接すること

いただく喜びよりも与える喜びを知る人ほど

幸福な人はないということ

理 念

人間愛に基づき、和顔愛語の心を基本理念として、
心豊かな安らぎのある地域社会の推進と充実に貢献することに努める。

基本方針

- I 私たちは、生命の尊さを大切にし、人権を尊重します。
- II 私たちは、誠心誠意、思いやりとやさしさを持って接します。
- III 私たちは、常に向上心を持って専門的サービスを提供します。
- IV 私たちは、公共性・透明性・経済性を大切にします。
- V 私たちは、地域と共に医療・介護・福祉の充実を目指します。

I

はじめに

ご挨拶

青祥会ケアシステムの構築を目指し

我が国は、平均寿命・健康寿命が世界一の長寿社会を迎えておりますが、人生の最期まで健康であり続けたいという願いは、万国共通です。そうした中、社会の仕組みを少子高齢化と人生百年時代に対応するため、高齢者から若者までが安心できる全世代型社会保障改革が進められています。それは地域の人と人、資源と社会が世代や分野を超えて繋がる地域共生社会の実現にあると考えます。

こうした中、青祥会は、質の高い医療・介護サービスを一体的に提供する仕組みとしての「青祥会ケアシステム」の構築を目指し、平成30年度から3年計画の第二期中期経営計画「健全経営の推進」を地域医療・地域福祉の発展のために推進して参ります。

また、経営の基本である青祥会の「理念」と事業推進の基本理念としての「和顔愛語」の心を大切にし、社会福祉法人としての社会的役割と使命を果たしていくとともに、健全な組織運営を推進して参ります。

平成31(2019)年は、元号が令和に改められ新時代の幕が開きます。青祥会もさらに大きく飛躍する年として、次の5つの重点項目を掲げ、事業運営に取り組んで参ります。



社会福祉法人 青祥会

理事長 畑下 嘉之



1. 医療・介護サービス向上の取組

青祥会ケアシステム（認知症ケアシステムを含む）は、高齢者や精神障害者等が、要介護状態になっても住み慣れた地域で相互に助け合い、安心して暮らしていける地域包括ケアの仕組みとして、地域の特性や資源等を活かし全組織・全職員が一丸となって構築して参ります。また、患者・利用者様の心身の機能回復、重度化防止等自立支援に努め、更には権利擁護と虐待防止の取組み等質の高い医療・介護サービスの提供に努めます。

2. 地域貢献活動の取組

公共性の高い社会福祉法人である青祥会は、少子高齢化・人口減少等社会情勢が大きく変化している中、複雑・多様化する地域ニーズ・課題を的確に捉え、社会の幅広い層と力を合わせ、法人・病院・施設・事業所単位で様々な地域貢献の取組みを進めます。また、引き続き小・中学生等に対する介護・福祉等の出前講座を精力的に実施し、次世代の人材育成の重要性を広めて参ります。

3. 人材の確保・育成の取組

人材の確保と育成は、医療・介護サービス提供の事業継続には、極めて重要な課題であり、次なる時代を切り拓く原動力です。そのために、今後を見据えた外国人労働者の人材確保、また、法人の枠を超えた地域全体の育成の取組みも進めて参り

ます。また、業務改善・業務改革や多様で柔軟な働き方改革、更には互いに切磋琢磨しながら自らの持てる力を存分に発揮し、達成感が得られる仕組みとしての新人事制度の柔軟な運用に努めて参ります。

4. 組織強化の取組

看護介護記録・請求業務の電子化は、これまでの推進を踏まえカスタマイズ等の機能強化を図るとともに、IT化による青祥会全体の連携の推進を図ります。また、広報誌「かしょう(嘉祥)」を始めとして、様々な情報を発信するための戦略的な広報活動に努めます。更には青祥会ケアシステム推進のため、在宅部門の組織の一層の体制強化を図ります。

5. 経営基盤充実の取組

事業費・光熱水費等の経費削減と各部門の稼働率向上対策、業務の効率化等を図ります。また、人事・給与・勤怠管理システムの電子化と時間管理・労務管理を徹底し、事務の効率化の推進を図ります。更には社会ニーズに対応した各施設・設備の大規模改修等を計画的に進めて参ります。

以上を実践することにより、地域における医療・介護・福祉の発展に貢献するとともに、社会福祉法人としての役割・使命を果たして参ります。

II

法人の概要

事業内容 57事業

法人設立1982年(昭和57年)3月8日

事業区分	事業名称	定員	事業開始年月日	所在地
第1種	特別養護老人ホーム 青浄苑	104	1982年(昭和57年)11月25日	長浜市加田町2995
	特別養護老人ホーム アンタレス(※1)	70	2008年(平成20年)4月1日	長浜市加田町3360
	特別養護老人ホーム 坂田青成苑	100	1992年(平成4年)4月21日	米原市野一色1136
	特別養護老人ホーム 青芳	54	1998年(平成10年)10月1日	長浜市川道町2572
	特別養護老人ホーム やまびこ(※2)	50	1999年(平成11年)12月1日	愛知県愛荘町安孫子1235
	ケアハウス さかた	15	1997年(平成9年)3月1日	米原市野一色1136
	ケアハウス アシ・アエ	15	1998年(平成10年)10月1日	長浜市川道町2572
第2種	青浄苑ショートステイ 青浄苑ショートステイ(介護予防)	13	1982年(昭和57年)11月25日	長浜市加田町2995
	アンタレスショートステイ(※1) アンタレスショートステイ(介護予防)(※1)	20	2008年(平成20年)4月1日	長浜市加田町3360
	坂田青成苑ショートステイ 坂田青成苑ショートステイ(介護予防)	10	1992年(平成4年)4月21日	米原市野一色1136
	ショートステイ青芳 ショートステイ青芳(介護予防)	16	1998年(平成10年)10月1日	長浜市川道町2572
	やまびこショートステイ やまびこショートステイ(介護予防)	20	1999年(平成11年)12月1日	愛知県愛荘町安孫子1235
	長浜長寿デイサービスセンター 長浜長寿デイサービスセンター(介護予防)	12	1999年(平成11年)6月1日	長浜市朝日町19-3
	長浜西部デイサービスセンター 長浜西部デイサービスセンター(総合事業)	40	2001年(平成13年)7月1日	長浜市朝日町19-3
	アンタレスデイサービスセンター(※3) アンタレスデイサービスセンター(総合事業)(※3)	40	2008年(平成20年)4月1日	長浜市加田町3360
	坂田デイサービスセンター 坂田デイサービスセンター(総合事業)	30	1992年(平成4年)4月21日	米原市野一色1136
	山東デイサービスセンター 山東デイサービスセンター(総合事業)	30	2001年(平成13年)4月1日	米原市長岡1050-1
	デイサービスセンター青芳 デイサービスセンター青芳(総合事業)	40	1998年(平成10年)10月1日	長浜市川道町2572
	デイサービスセンターやまびこ デイサービスセンターやまびこ(総合事業)	40	1999年(平成11年)12月1日	愛知県愛荘町安孫子1235
	アンタレスホームヘルパーステーション(※3) アンタレスホームヘルパーステーション(総合事業)(※3)		2008年(平成20年)4月1日	長浜市加田町3360
	長浜西部福祉ステーション		2001年(平成13年)7月1日	長浜市朝日町19-3
	グループホームおりひめ・ひこぼし(※7)	12	2012年(平成24年)4月1日	長浜市寺田町263-4

事業区分	事業名称	定員	事業開始年月日	所在地
公益事業	介護老人保健施設長浜メディケアセンター	104	1993年(平成 5年) 9月 7日	長浜市加田町2984-1
	介護老人保健施設長浜メディケアセンター (短期入所療養介護)			
	介護老人保健施設長浜メディケアセンター (介護予防短期入所療養介護)			
	介護老人保健施設長浜メディケアセンター (通所リハビリテーション)			
	介護老人保健施設長浜メディケアセンター (介護予防通所リハビリテーション)	40	1993年(平成 5年) 9月 7日	
	介護老人保健施設長浜メディケアセンター (介護予防通所リハビリテーション)			
	介護老人保健施設坂田メディケアセンター	130	1999年(平成11年)12月 1日	米原市野一色1136
	介護老人保健施設坂田メディケアセンター (短期入所療養介護)			
	介護老人保健施設坂田メディケアセンター (介護予防短期入所療養介護)			
	介護老人保健施設坂田メディケアセンター (通所リハビリテーション)	40	1999年(平成11年)12月 1日	
	介護老人保健施設坂田メディケアセンター (介護予防通所リハビリテーション)			
	アンタレス訪問看護ステーション(※5) アンタレス訪問看護ステーション(介護予防)(※5)		2009年(平成21年) 7月 1日	長浜市加田町3360
	アンタレスケアプランセンター(※3)		2008年(平成20年) 4月 1日	長浜市加田町3360
	西部ケアプランセンター		2001年(平成13年) 6月 1日	長浜市朝日町19-3
	坂田ケアプランセンター		1999年(平成11年) 8月20日	米原市野一色1136
	ケアプランセンター青芳		1999年(平成11年) 8月20日	長浜市川道町2572
	秦荘ケアプランセンター		1999年(平成11年)12月28日	愛知郡愛荘町安孫子1235
	南長浜地域包括支援センター(※4) 南長浜地域包括支援センター(介護予防支援)		2016年(平成28年) 4月 1日	長浜市朝日町19-3
セフィロト病院(精神科・老年精神科・内科)(※6)	179	2012年(平成24年) 4月 1日	長浜市寺田町257	
介護職員初任者研修(介護職員初任者研修課程(通学))	40	2013年(平成25年) 5月13日	長浜市加田町3360	
介護福祉士実務者研修(実務者養成施設通信過程)	40	2014年(平成26年)10月 1日	長浜市加田町3360	

全57事業(令和2年3月31日現在)

- ※1 2007年(平成19年)4月1日青浄苑増床として開設、2008年(平成20年)4月1日分離独立
- ※2 介護保険法指定名称:指定介護老人福祉施設やまびこ
- ※3 2007年(平成19年)4月1日にアンタレスに移転、2008年(平成20年)4月1日に名称変更
アンタレスデイサービスセンター(1993年(平成5年)9月1日 青浄苑デイサービスセンターとして開設)
アンタレスホームヘルパーステーション(1997年(平成9年)10月1日 青浄苑ホームヘルパーステーションとして開設)
アンタレスケアプランセンター(1999年(平成11年)8月20日 長浜ケアプランセンターとして開設)
- ※4 2016年長浜市より受託し、長浜西部福祉ステーションにて事業開始(介護あんしん窓口湖島の里、介護あんしん窓口アンタレス受託終了)
- ※5 2009年(平成21年)7月1日にアンタレスに移転(1995年(平成7年)5月31日 訪問看護ステーションさかたとして開設)
- ※6 1958年(昭和33年)4月16日 財団法人青樹会八幡精神病院長浜分院として開院
- ※7 2014年(平成26年)4月1日名称及び定員変更
(2003年(平成15年)4月1日長浜青樹会病院より萌黄寮として運用開始、2012年(平成24年)4月2日セフィロト病院より事業譲渡)

沿革

1982年 (昭和57年)	1月29日	社会福祉法人青祥会設立認可 (厚生省社第54号)
	3月8日	社会福祉法人青祥会設立
	11月25日	特別養護老人ホーム青浄苑開設 (定員50名、短期入所5名)
1983年 (昭和58年)	6月1日	特別養護老人ホーム青浄苑定員増 (定員50名→55名)
1986年 (昭和61年)	12月10日	滋賀県痴呆性老人処遇技術研修施設指定 (青浄苑)
1987年 (昭和62年)	4月1日	特別養護老人ホーム青浄苑新館増築 (定員55名→80名、短期入所5名→7名)
1989年 (平成元年)	10月2日	長浜市デイサービスセンター運営受託 (長浜市民交流センター)
1992年 (平成4年)	4月21日	特別養護老人ホーム坂田青成苑開設 (定員50名、短期入所10名) 坂田デイサービスセンター、 坂田在宅介護支援センター、 痴呆性老人在宅介護促進施設併設
	9月1日	特別養護老人ホーム青浄苑別館増築 (定員80名→100名、短期入所7名→17名) 青浄苑デイサービスセンター、 長浜市在宅介護支援センター(青浄苑)併設
1993年 (平成5年)	9月7日	介護老人保健施設 長浜メディケアセンター開設(定員104名) 通所リハビリセンター併設
	5月31日	訪問看護ステーションさかた開設
1997年 (平成9年)	3月1日	ケアハウスさかた開設(定員15名) 特別養護老人ホーム坂田青成苑増築 (定員50名→90名、短期入所10名→20名)
	4月1日	坂田デイサービスセンター(E型)併設
	10月1日	長浜市巡回型 24時間ホームヘルプサービス開始
1998年 (平成10年)	10月1日	特別養護老人ホーム青芳開設 (定員50名、短期入所20名) デイサービスセンター青芳、 在宅介護支援センター青芳併設 ケアハウスアシアエ開設(定員15名)

1999年 (平成11年)	6月1日	長浜長寿デイサービスセンター運営受託 (長浜市八幡東町長浜市役所東別館)
	8月20日	指定居宅介護支援事業所 長浜ケアプランセンター開設 指定居宅介護支援事業所 坂田ケアプランセンター開設 指定居宅介護支援事業所 東浅井ケアプランセンター開設
	12月1日	介護老人保健施設 坂田メディケアセンター開設(定員85名) 通所リハビリセンター併設
2000年 (平成12年)	3月1日	訪問看護ステーションいるか開設
	4月1日	青浄苑ホームヘルプステーション開設 (長浜市巡回型24時間ホームヘルプサービス /1997年(平成9年)より移行) やまびこ身体障害者デイサービスセンター併設
2001年 (平成13年)	4月1日	山東デイサービスセンター運営受託 (米原市民交流プラザ)
	6月1日	指定居宅介護支援事業所 西部ケアプランセンター開設 (西部福祉ステーション) 長浜市西部在宅介護支援センター開設 (西部福祉ステーション)
	7月1日	長浜西部デイサービスセンター運営受託 (長浜市民交流センター/平成元年より移設 →長浜西部福祉ステーション)
2004年 (平成16年)	4月1日	介護老人保健施設 坂田メディケアセンター新館増築 (定員85名→130名)
	11月1日	訪問看護ステーションさかた [サテライトながはま]設置
2005年 (平成17年)	11月3日	特別養護老人ホーム青浄苑大規模修繕プライ トケア(光療法)導入
2006年 (平成18年)	4月1日	東浅井ケアプランセンターをケアプランセンター 青芳に改称
2007年 (平成19年)	4月1日	特別養護老人ホーム青浄苑アンタレス開設 (定員60名、短期入所30名)

2008年 (平成20年)	3月1日	介護老人保健施設 長浜メディケアセンター大規模修繕
	4月1日	アンタレスを青浄苑から分離独立し、 「特別養護老人ホームアンタレス」および 「アンタレスデイサービスセンター」 「アンタレスホームヘルパーステーション」 「アンタレスケアプランセンター」 「介護あんしん窓口アンタレス」に改称
2009年 (平成21年)	7月1日	訪問看護ステーションさかた（サテライトなが はま）の拠点を米原市野一色から長浜市加田 町に移し、「アンタレス訪問看護ステーション（サ テライトさかた）」を設置
2010年 (平成22年)	5月1日	アンタレスデイサービスセンター定員増 (定員35名→40名)
2012年 (平成24年)	4月1日	セフィロト病院開院 (精神病床179床／内指定病床数20床) グループホーム萌黄寮開設（定員6名）
2014年 (平成26年)	4月1日	グループホーム萌黄寮からグループホームおり ひめに名称変更 グループホームひこぼし 開設（定員6名）
2015年 (平成27年)	5月1日	特別養護老人ホーム坂田青成苑定員変更 (定員90名→100名、短期入所20名→10名) セフィロト病院認知症治療病棟59床事業開始 (一般病棟60床、精神療養病棟119床→60 床、認知症治療病棟59床)
	10月1日	セフィロト病院認知症疾患医療センター 開設
2016年 (平成28年)	3月31日	介護あんしん窓口受託終了
	4月1日	南長浜地域包括支援センター受託 開設
2018年 (平成30年)	6月1日	特別養護老人ホームアンタレス定員変更 (定員60名→70名・短期入所30名→20名)
2019年 (令和元年)	5月1日	特別養護老人ホーム青浄苑定員変更 (定員100名→104名、短期入所17名→13名)
		特別養護老人ホーム青芳定員変更 (定員50名→54名、短期入所20名→16名)

1982年(昭和57年)
特別養護老人ホーム青浄苑
建設予定地の造成に着手



1982年(昭和57年)
青浄苑(長浜市加田町)開設 最初の入所者として4名入苑



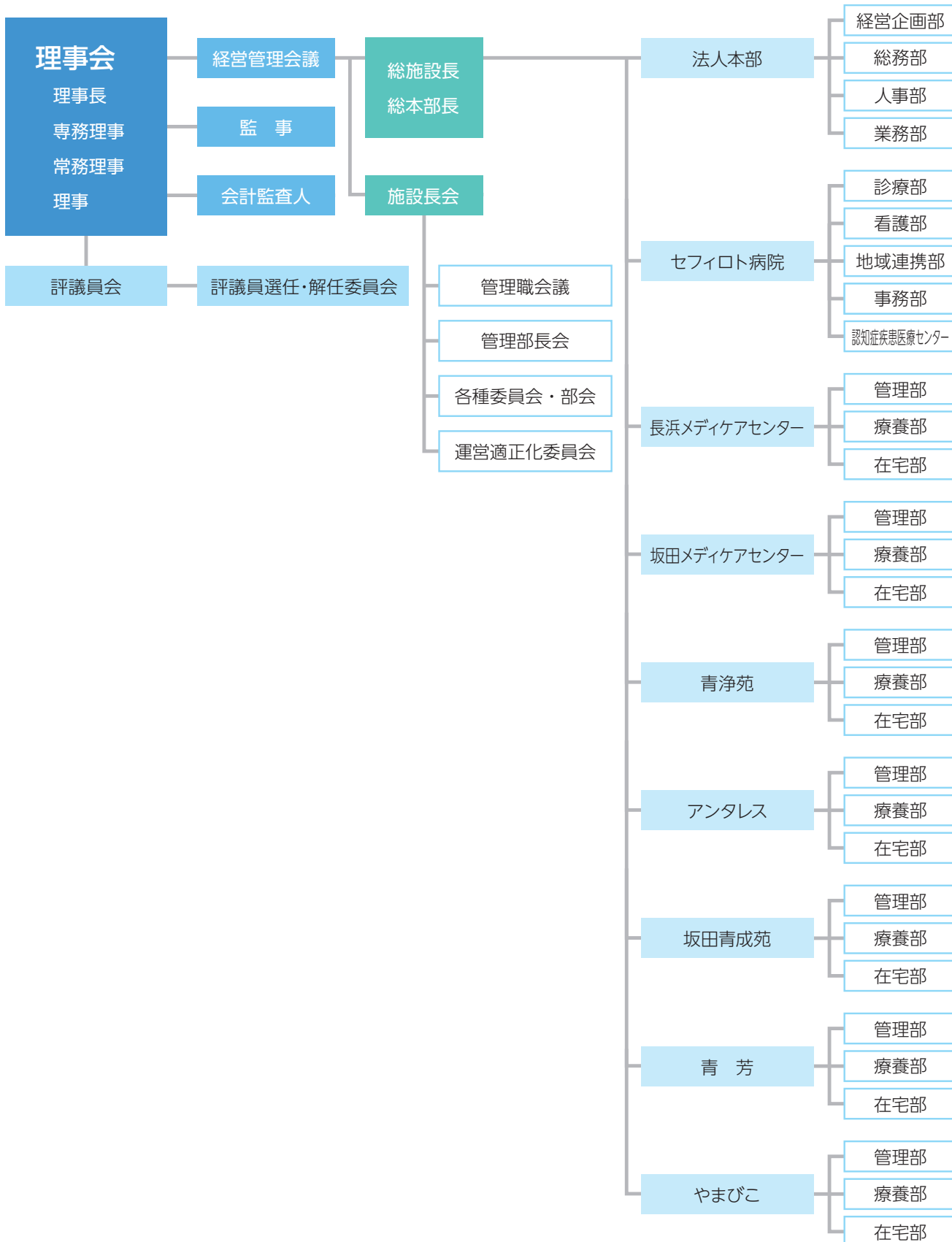
2007年(平成19年)
特別養護老人ホーム青浄苑アンタレス開設



2012年(平成24年)
セフィロト病院(長浜市寺田町)
開設



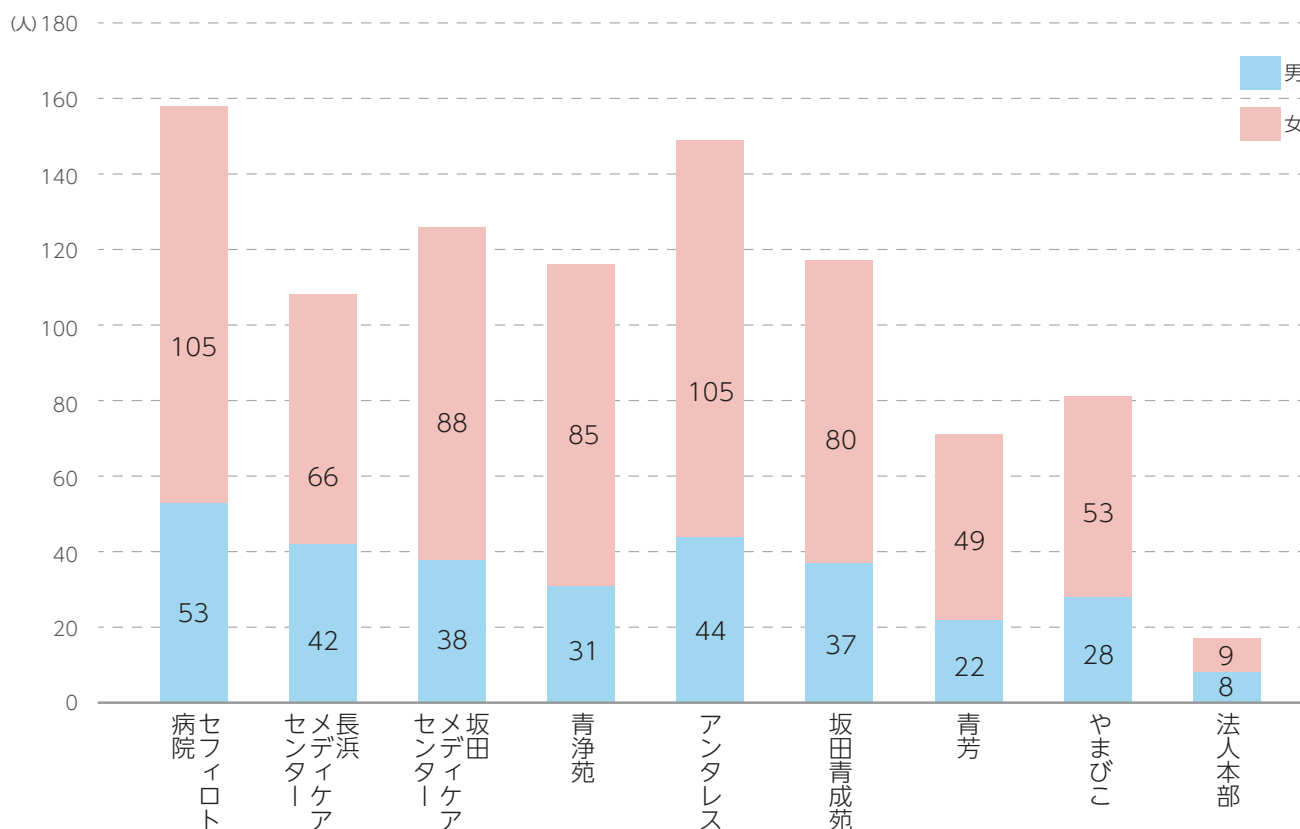
組織図



常勤・非常勤別職員状況表 (平成31年4月1日)

施設別		セフィロト 病院	長浜 メディケア センター	坂田 メディケア センター	青浄苑	アンタレス	坂田 青成苑	青 芳	やまびこ	法人本部	うち 重複者	合 計
常勤	男	41	29	30	22	31	26	16	15	8	1	217
	女	82	50	60	57	61	50	37	39	9	0	445
	常勤 計	123	79	90	79	92	76	53	54	17	1	662
非常勤	パート 男	12	13	8	9	12	8	5	11	0	2	76
	パート 女	23	16	28	26	43	30	11	14	0	3	188
	パート 計	35	29	36	35	55	38	16	25	0	5	264
	嘱託 男	0	0	0	0	1	3	1	2	0	3	4
	嘱託 女	0	0	0	2	1	0	1	0	0	4	0
	嘱託 計	0	0	0	2	2	3	2	2	0	7	4
非常勤 計	35	29	36	37	57	41	18	27	0	12	268	
全体	男	53	42	38	31	44	37	22	28	8	6	297
	女	105	66	88	85	105	80	49	53	9	7	633
	合計	158	108	126	116	149	117	71	81	17	13	930

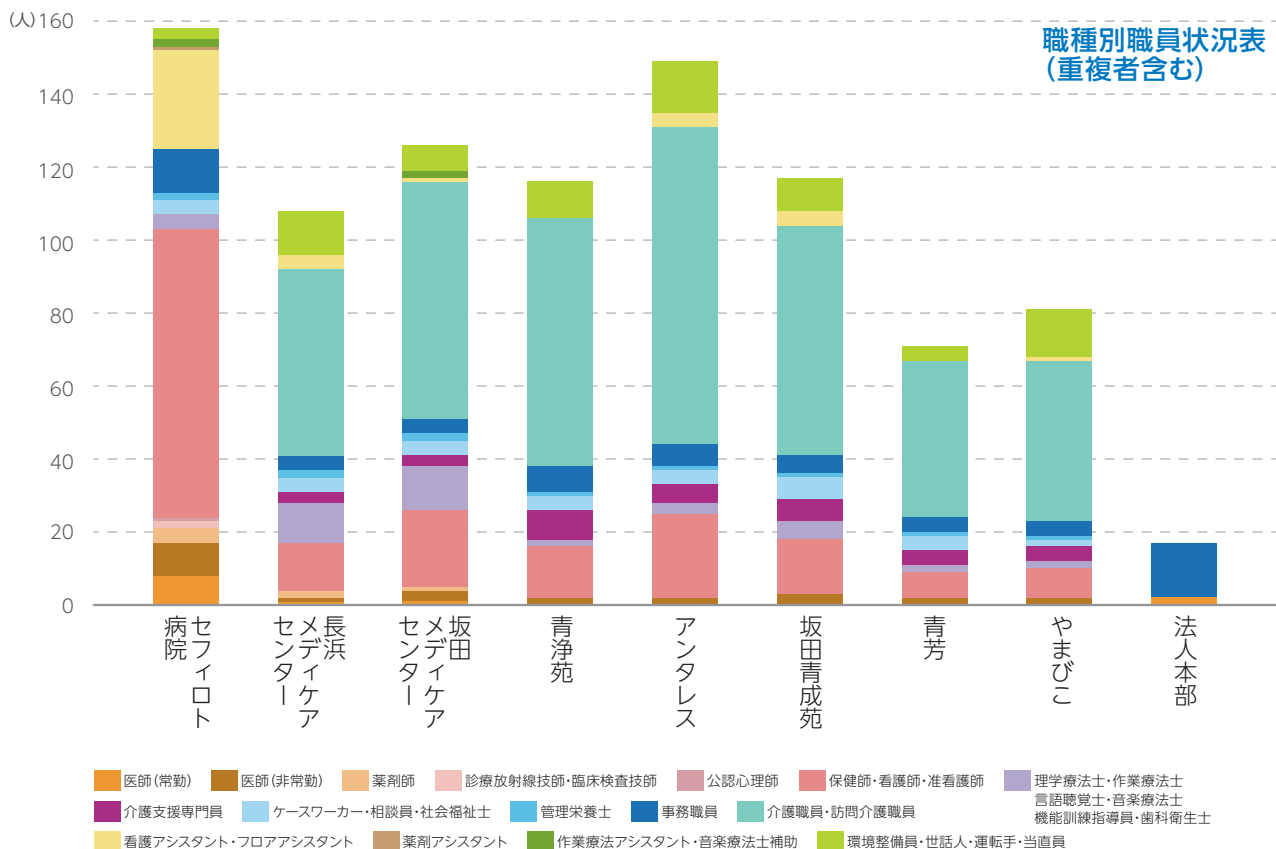
常勤・非常勤職員 男女構成 (重複者含む)



職種別職員状況表 (平成31年4月1日)

	セフィロト 病院	長浜 メディケア センター	坂田 メディケア センター	青浄苑	アンタレス	坂田 青成苑	青 芳	やまびこ	法人本部	合 計
医師 (常勤)	8	1	1	0	0	0	0	0	2	12
医師 (非常勤)	9	1	3	2	2	3	2	2	0	24
薬剤師	4	2	1	0	0	0	0	0	0	7
診療放射線技師・臨床検査技師	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
公認心理師	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
保健師・看護師・准看護師	79	13	21	14	23	15	7	8	0	180
理学療法士・作業療法士 言語聴覚士・音楽療法士 機能訓練指導員・歯科衛生士	4	11	12	2	3	5	2	2	0	41
介護支援専門員	0	3	3	8	5	6	4	4	0	33
ケースワーカー・相談員・社会福祉士	4	4	4	4	4	6	4	2	0	32
管理栄養士	2	2	2	1	1	1	1	1	0	11
事務職員	12	4	4	7	6	5	4	4	15	61
介護職員・訪問介護職員	0	51	65	68	87	63	43	44	0	421
うち介護福祉士	0	42	54	52	71	54	30	36	0	339
うち実務者研修修了者	0	6	6	8	15	4	3	5	0	47
うち初任者研修修了者 (HP2級含む)	0	31	42	45	62	38	30	27	0	275
看護アシスタント・フロアアシスタント	27	4	1	0	4	4	0	1	0	41
薬剤アシスタント	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
作業療法アシスタント 音楽療法士補助	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4
環境整備員・世話人・運転手・当直員	3	12	7	10	14	9	4	13	0	72
合 計	158	108	126	116	149	117	71	81	17	943

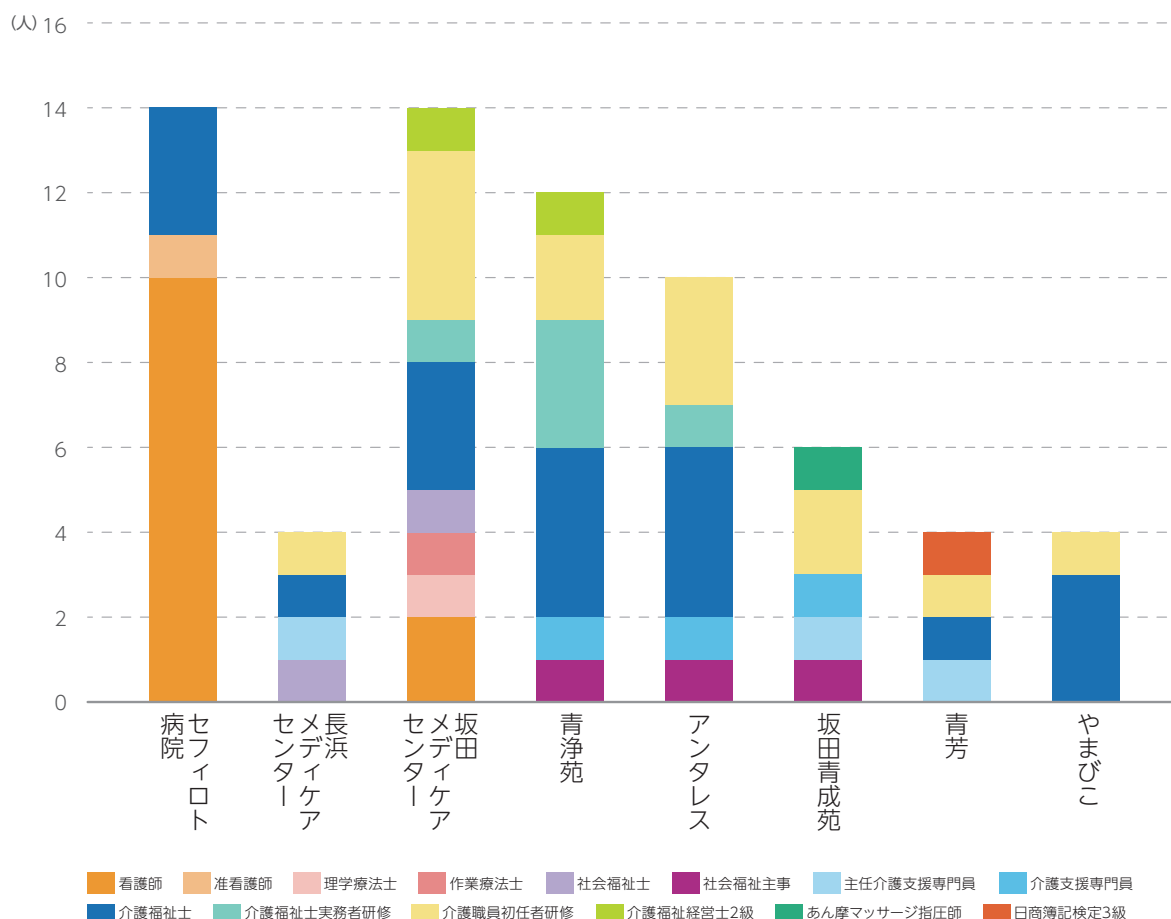
※複数職種を兼務している場合、主職種の人数を計上しています。※複数施設を兼務している場合、全ての施設に人数を計上しています。



令和元年度 資格取得者数

	セフィロト 病院	長浜 メディケア センター	坂田 メディケア センター	青浄苑	アンタレス	坂田 青成苑	青 芳	やまびこ	合 計
看護師	10	0	2	0	0	0	0	0	12
うち新卒	9	0	1	0	0	0	0	0	10
准看護師	1	0	0	0	0	0	0	0	1
理学療法士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
作業療法士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
社会福祉士	0	1	1	0	0	0	0	0	2
社会福祉主事	0	0	0	1	1	1	0	0	3
主任介護支援専門員	0	1	0	0	0	1	1	0	3
介護支援専門員	0	0	0	1	1	1	0	0	3
介護福祉士	3	1	3	4	4	0	1	3	19
うち新卒	0	1	1	1	0	0	1	0	4
介護福祉士実務者研修	0	0	1	3	1	0	0	0	5
介護職員初任者研修	0	1	4	2	3	2	1	1	14
介護福祉経営士2級	0	0	1	1	0	0	0	0	2
あん摩マッサージ指圧師	0	0	0	0	0	1	0	0	1
日商簿記検定3級	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合 計	14	4	14	12	10	6	4	4	68

資格取得者数



III

第2期中期経営計画

第2期中期経営計画

平成30年4月～令和3年3月末：3年間

5つの柱 <年頭所感・運営方針>

- I. 医療・介護サービス向上の取組
- II. 地域貢献活動の取組
- III. 人材の確保・育成の取組
- IV. 組織強化の取組
- V. 経営基盤充実の取組

7つの重要施策

- ①患者・利用者の満足度の向上
- ②医療・介護の質の向上と安全・安心のサービスの提供
 - 医療・介護事故の防止に努め、安全・安心のサービス提供に努める。
- ③医療・介護・福祉の新規事業の推進
 - 認知症対策や地域包括支援等新たなサービスの提供に努める。
- ④人材の確保と育成
 - 医師・薬剤師・看護師・メディカルスタッフ・介護職員等の確保と教育研修等の一層の充実を図り、法人の将来を担う人材の育成に努める。
- ⑤健全経営の推進充実強化
 - 青祥会ブランドづくり、病院・施設の体制強化、全職員による稼働率の向上や業務改善等による経費削減の取組みを行い、法人全体の収支の健全な確保に努める。
- ⑥地域貢献・社会貢献事業
 - 地域や住民ニーズを把握し地域福祉・社会福祉の発展に貢献する。
- ⑦職員満足度の向上

健全経営の推進

- ◆青祥会の理念の実践と青祥会ケアシステムの構築によるブランドづくり
- ◆サービス活動収支比率 平成30年度：1～2% 令和元年～2年度：2%以上を目指す
- ◆ワークライフバランスのとれた働きやすい職場環境づくり
「業務のスクラップandビルドによる適正な勤務時間の管理」

I. 医療・介護サービス向上の取組

①患者・利用者の満足度の向上

目 標	課 題	具 体 策
患者・利用者本位のサービスの提供	患者・利用者尊重の医療・介護	患者・利用者の人権尊重と身体拘束・虐待防止対策の取組
	定期的なアンケート調査の実施	患者・利用者満足度調査と結果分析の実施によるサービス改善の取組
	苦情が発生しない仕組みづくり	苦情発生時の迅速・適切な対応と苦情発生防止策の強化
	受入先の確保	患者の退院促進の取組強化
	地域医療の促進	地域医療向上のための病診連携・病々連携の取組強化
サービスの質の向上	職員の意識の向上	接遇の意識の周知徹底
		職業倫理の周知徹底
	医療・介護サービスの質の向上	自己評価の実施と結果分析による課題解決の実施
		病院機能評価の更新認定調査受審による質の高い精神科医療の確保（令和元年度更新受審）
		精神科救急医療システム体制の継続実施
		看護・介護記録の電子化の導入推進と業務の効率化・簡素化・簡略化の推進
		アウトリーチによる地域ニーズの把握
		地域課題を明確化し政策提言の実施
		認知症に対する専門性・個別ケアの推進
		認知症ケアシステムの構築
認知症疾患医療センター・認知症治療病棟の円滑な運営		
医療制度の仕組みづくり	施設における医療対応（往診等）の検討	

②医療・介護の質の向上と安全安心のサービスの提供

目 標	課 題	具 体 策
安全管理・リスクマネジメント	感染症・食中毒の教育研修の徹底	感染症の蔓延防止・食中毒の防止対策徹底
	医療・介護事故の教育研修の徹底	医療・介護事故防止対策の徹底
	医療・介護事故の防止	医療・介護事故への迅速・適正な対応
	安全運転の教育研修の徹底	交通事故（送迎・通勤等）撲滅の推進

③医療・介護・福祉の新規事業の推進

目 標	課 題	具 体 策
新たな事業の推進	新たなニーズに対応するサービス事業の推進	精神障害者地域包括ケアシステムの構築
		我が事、丸ごとで繋ぐ地域共生社会づくりの推進にかかる情報収集・情報提供

II. 地域貢献活動の取組

⑥地域貢献・社会貢献事業

目 標	課 題	具 体 策
地域との交流と連携	地域と協働化した事業推進	法人、病院、施設、事業所単位で地域貢献活動の立案・実施
		看護・介護の実習生の積極的な受け入れ
地域における公益的な取組み	施設で実施の検討	「地域における公益的な取組み」の運用の弾力化に伴う対応の検討
	事業の継続	病院での無料低額診療事業の継続実施
専門職員の育成	研修の効率的な運営	各専門職員育成の研修期間・方法等の見直しの実施による各研修会の一般公開での開催

第2期中期経営計画

平成30年4月～令和3年3月末：3年間

Ⅲ. 人材の確保・育成の取組

④人材の確保と育成

目 標	課 題	具 体 策
人材の確保・育成	計画的な研修体制の確立と人材育成	総合的な人材育成計画の策定（中堅・幹部職員の育成） 各専門職員育成のための各研修会の開催
	計画的な採用計画の確立	労働力人口不足の影響等に伴う抜本的な人材確保対策の取組 部会内の指導体制を整え再就職セミナーの開催、フォローアップ研修の充実化
人事制度の充実	効率・効果的で活性化に繋がる人事制度の確立	新人事制度の職員への周知徹底と適正な運用の推進
人事施策の構築	による職員の育成	標準人員に基づく適正な人員配置の実施

⑦職員満足度の向上

目 標	課 題	具 体 策
働きやすい 職場環境づくり	相談窓口の設置等体制づくり	職員の心身の健康管理、メンタルヘルス対策の実施及びストレスチェック制度の活用
	休暇の取得しやすい仕組みづくり	有給休暇の取得状況の把握と取得促進に向けての検討
	ワークライフバランスの推進	適正な勤務時間の徹底した管理

Ⅳ. 組織強化の取組

⑤健全経営の推進充実強化

目 標	課 題	具 体 策
魅力ある組織づくり	理念の浸透	各研修における青祥会「理念」浸透の推進
		青祥会の理念の実践と青祥会ケアシステムの構築によるブランドづくり
本部機能の充実	指示命令系統の確立	法人統制、内部監査体制の充実、組織図改定の継続実施
業務の標準化・効率化	業務の改善	標準事務手続きとしてのマニュアルの策定
		看護・介護記録、請求事務等の電子化導入の推進
広報活動の充実	戦略的な広報活動の推進	広報誌の作成配布、地域に法人を知って貰える情報発信
病院・施設・事業所の 体制強化	各制度改正への対応	介護保険制度改正への迅速な対応 (監査指導事項・加算算定要件・運営規程等の見直し)
		セフィロト病院入院システムによる施設入所者の適切な医療の確保
		法人内事業所への紹介率の向上
	事業の連携	利用者情報の共有と事業所間連携の強化

Ⅴ. 経営基盤の取組

⑤健全経営の推進充実強化

目 標	課 題	具 体 策
業務の効率化	稼働率の向上による収益確保の確立	サービス活動収支比率：平成30年度：1～2%令和元年度～令和2年度：2%以上を目指す
		経費削減と稼働率向上への対応等による収益の確保
	資金の有効利用	各種補助金の活用の検討
業務の改善	業務の改善	人事・給与・勤怠管理システムの電子化及びネットワーク活用による事務の効率化の推進
		施設整備計画
施設整備計画	施設毎の計画的な改修が必要	青芳の大規模改修：平成30年度
		やまびこの大規模改修：平成30年度
		坂田メディケアセンターの大規模改修：令和元年度
		青浄苑の大規模改修：令和元年度

IV

事業報告

令和元年度 事業報告

社会福祉法人 青祥会

昭和57年3月8日設立



平成から令和に元号が変わり新たな年が始まった本年度は、令和元年12月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスはパンデミック（世界的大流行）を引き起こし、南極を除く全大陸に感染拡大し、3月31日現在、全世界で感染者が80万人、死亡者が4万人を超えた。一方、日本は、感染者が2,122名、死亡者が57名と報告されている。

また、新型コロナウイルスによる経済活動の停滞で企業の業績は急速に悪化し、2020年1～3月期の世界の主要企業の連結純利益は前年同期に比べ40%減となり、リーマン・ショック以来の落ち込みを見せている。特に、日本は前年同期に比べ78%減であり、世界で最も著しい落ち込みを見せている。

このような経済活動が落ち込むなか、当法人は令和2年3月において新型コロナウイルスの影響が少なく、稼働率の向上、全施設の人員配置の見直し等により、営業利益率6.2%を確保し、第2期中期経営計画で目標に掲げた2%以上を大きく上回った。

また、その他に働き方改革として「働きやすい」「働きがいのある」職場とするために「成長機会の創出」として昇進昇格制度や、「より業務に励む職員への優遇措置」として給与体系を見直す等とする新人事制度を平成31年4月に本格稼働した。

令和元年11月には、外国人技能実習第1期生としてベトナム人2名を坂田青成苑に受け入れた。職員一人ひとりと外国人に対する理解が深まり、異国文化や習慣という新しい価値観が施設内に取り入れられ、職場の活性化に大きく繋がった。

さらに、医療・介護サービスの質の向上及び業務の効率化を図るため、看護・介護記録電子化システムのカスタマイズの実施を行い、一元管理を行った。

あらたに、管理職以上を対象にグループウェアを導入し、法人・施設・個人のスケジュールを管理することで情報共有を図った。今後は、対象職員の範囲を拡大し、事務連絡等をグループウェア上で情報提供及び共有管理することでペーパーレス化を推し進め、情報の迅速化を図っていく。

セフィロト病院



昭和33年4月16日開院

令和元年度青祥会運営方針に基づき以下の5つを基本方針として掲げ、事業活動に取り組んだ。

1) 医療・介護サービス向上の取組

精神一般病棟・精神療養病棟による入院治療のほか、増加する認知症高齢者に対応するため、認知症治療病棟による専門的な入院治療を行った。また、認知症疾患医療センターによる初期診断、鑑別診断を行い「認知症ケアシステム」の構築に取り組んだ。

また、「セフィロト病院入院システム」推進の一環として、他病院や介護事業所との連携強化に努めた。

2) 地域貢献活動の取組

地域住民に病院が有する資源をできる限り利用していただくとともに、医療安全にも取り組み、安心安全な医療を提供した。また、認知症疾患医療センターが行う研修事業や公開講座について継続して行い、地域に密着した医療機関として貢献した。

3) 人材の確保・育成の取組

時間管理の一環として、業務改善と業務の効率化に取り組むことにより、ワークライフバランスの取れた職場環境を築き、働く職員の評判や紹介により人が集まる職場づくりに取り組んだ。

また、スポーツ活動から得た団結力を活かし、普段の業務においても、目的や目標に沿ったチーム医療を実践し、精神科のプロとして、探求心と拘りをもった人材の育成に努めた。

4) 組織強化の取組

セフィロト病院運営会議及び部長会のほか、各委員会や会議を効果的に開催することにより、更なる組織力の強化を図った。また、7月に4回目となる病院機能評価を受審するにあたり、各部署の主要メンバーにより構成される委員会を定期的を開催し、病院としての課題や情報の共有化と改善に向けた取り組みを継続的に実施し、更新の認定を受けることができた。

5) 経営基盤拡充の取組

適切なベッドコントロールにより空床日を減らす取り組みを継続的に行ったことにより、病院が有する経営資源を最大限に活用でき、地域のニーズへの対応、収入の安定、ひいては経営基盤の充実に繋がった。

また、2月に発生した新型コロナウイルス感染症対策について、法人の方針のもと当院として出来る限りの対策を検討、実施し、医療体制の維持を図った。

介護老人保健施設 長浜メディケアセンター

平成5年9月7日開設



長浜メディケアセンターは、超強化型介護老人保健施設としての算定要件を維持することができた。また、在宅復帰に必要なADLの獲得に向けたリハビリ、在宅訪問、個別ケアを充実することで入所中はもちろん退所後も継続的で適切な支援やアドバイスを行った。

入所(含む短期入所)の稼働率は、99.9%(前年度対比1.1%増)、1日の平均利用者数は、103.9人(前年度対比1.1人増)となり、通所リハビリテーションの稼働率は、60.2%(前年度比2.3%)、1日の平均利用者は、24.1人(前年度比0.9人増)となった。施設全体の介護保険事業収入および当期活動増減差額は、いずれも予算以上の結果となった。

1) 医療・介護サービス向上の取組

- ①青祥会ケアシステムにおける介護老人保健施設の役割を果たすため、ショートステイや通所リハビリテーションの居宅サービスを強化し、利用者の増加を図った。また、入所中だけでなく退所後のアドバイスなどを通して、住み慣れた地域での在宅生活の自立支援をフォローした。
- ②専門職としての高い知識と技術で、利用者の心身機能の回復、重度化防止等自立支援に向けた介護サービスを提供し、多くの利用者の在宅復帰をサポートした。

2) 地域貢献活動の取組

- ①実習生の職場体験を積極的に受け入れ、現場で数多く介護のすばらしさを体験してもらい、看護や介護の魅力を知ってもらった。
- ②地域住民からの要望で、リハビリ、管理栄養士などの専門スタッフを地元自治会に派遣し、転倒予防や健康チェックをテーマにした「出前講座」を開催し、健康や福祉の啓蒙活動を行った。

3) 人材の確保・育成の取組

- ①多職種協働で助け合い、働きやすい職場作りと職員の定着に向けた取組を行った。
- ②全職員が施設運営に参加する意識が高まったことで、急な入院などの退所でベッドが空いた場合も全職種が協力し、次の入所者のスムーズな受け入れができた。
- ③ワーク・ライフ・バランスの取組として、業務改善・業務改革を積極的に行い、残業の削減と計画的な有休取得を行った。

4) 組織強化の取組

- ①「ちようじゅシステム」の活用で、多職種間の情報の共有化が図れ、相談案件に対し迅速な対応を行った。
- ②法人の組織力を活かした情報共有化で空き状況を把握し、相談があった時には、法人内の最適な事業所を勧めた。

5) 経営基盤充実の取組

- ①超強化型介護老人保健施設として取組み、算定要件の維持と稼働率の確保で、安定した収益を確保できた。
- ②適正な人員配置を維持し、人件費比率65%以下にすることができた。また、「眠りSCAN」や「非常用自家発電設備」の補助金を受けることができた。

介護老人保健施設 坂田メディケアセンター

平成11年12月1日開設



令和元年度は、在宅強化型から超強化型への移行を実現し、従来からの在宅復帰・在宅療養支援の取り組みを一層推進したことにより、安定的な超強化型老健の運営に努めた。今後は超強化型老健として職員が一丸となり、在宅復帰・在宅療養支援の地域拠点としての役割を確固たるものとする中で、サービスの質を向上し地域貢献を推進していきたい。

1) 医療・介護サービス向上の取組

利用者が退所後も安心した在宅生活を継続するため、入所中の支援のみならず退所後の支援として、多職種による入所・退所前後訪問指導を継続的に実施したことで、安定的な超強化型老健の運営に繋がられた。他方、介護事故については誤薬が恒常的に発生しており、職員のスキルアップが課題として残る。

2) 地域貢献活動への取組

地域の自治会等への出前講座は要請がなく実施できなかったが、施設での地域住民に向けた講習会を実施し、地域貢献活動に努めた。今後も地域の社会資源としての存在を積極的にアピールし、地域貢献に努めていく。

3) 人材の確保・育成の取組

ストレスの少ない職場づくりを目指し、職員との面談を積極的に行い、広く意見等を集め、職場環境作りの参考とした。今後は指導者の育成など、施設にてリーダー的な役割を果たせる職員の成長を促す取り組みを推進する必要がある。

4) 組織強化の取組

看護・介護記録電子化では、定着化及び職員全体の操作レベルの向上を図り一定の成果は得られた。

5) 経営基盤充実の取組

稼働・収益状況については役職会議を中心に情報共有をし、意識の統一を図った。超強化型施設としての要件を満たし、安定的な運営に努めたことで、稼働率では96.6%と前年度の97.6%から低下したものの、サービス活動増減差額では、対前年度比で大幅な増加となった。

通所については利用延べ人数5,936人と、前年度の6,101人に対し減少となった。今後は、リハビリテーションにおける地域の潜在的なニーズを把握し、利用者の満足度を意識した取り組みに努めていく。

特別養護老人ホーム 青浄苑

昭和57年11月25日開設



地域ニーズをしっかりと把握し、これまで以上に地域の期待に応えていくことが重要な時代であることを再認識し、社会福祉法人としての役割と使命を果たしていくために、全職員が一丸となって入所や短期入所、更には地域包括支援センターを中心とする在宅関係の各事業に積極的に取り組んだ。

今後も、多職種の一層の連携・協働化を図り、介護の重度化等への対応や県・市の行政と協議を進め、認知症者への適切な対応も強化していくこととし、ソフト・ハードの両面にわたる健全経営に取り組み、地域から信頼される施設を目指していくこととした。各部門において特に以下の重点施策の達成に向けて取り組んだ。

1) 医療・介護サービス向上の取組

- ①利用者に質の高いサービスの提供を図るため、介護の安全と事故防止・感染症の防止、また食中毒防止対策やリスクマネジメントの徹底に努めるとともに、多職種が連携し、より一層のサービスの向上に努めた。
- ②定期的に介護相談員の訪問を受け入れ、第三者からの意見を積極的に取り入れることでサービスの向上に努めた。
- ③入所・在宅サービス部門それぞれに利用者および家族に対して満足度のアンケート調査を実施し、ニーズに沿ったサービスの向上に努めた。

2) 地域貢献活動の取組

- ①地域のボランティアや実習生を積極的に受け入れた。施設職員の地域行事への参加や、地域の方の施設行事参加等も進めた。
- ②長浜北星高校、長浜南中学校、木之本中学校への出前講座に介護職員が参加し、介護に関する説明を行った。

3) 人材の確保・育成の取組

- ①人材の確保と育成・定着は重要課題として捉えるとともに、職員間のコミュニケーションを強化し、多職種連携のもと専門職としての知識・技術の習得に努めた。
- ②各種研修の参加を促し、最新の情報の収集と動向の把握・知識の習得に努めた。

4) 組織強化の取組

- ①日々の申し送りや記録を通して、多職種間の情報共有や意識の統一に努めた。
- ②各委員会が積極的に活動することで、職員の意識向上やケアの統一とサービスの向上に繋がり、組織の強化が一層図れた。

5) 経営基盤充実の取組

- ①平成30年度から3年間の第二期中期経営計画の2年目として、青祥会の理念の実践を徹底し、理念に基づいた目標を達成していくこととした。
- ②特にこれまで数年間続いていた赤字経営からの脱却を図ることを第一目標におき、事業所間のサービスの連携を図り加算を取れるものは取り、介護と看護の連携も強化し、介護の重度化への対応や認知症者等への適切な受け入れの強化等を図り、更には業務改善や標準人員を遵守し健全経営に努めた結果、平成29年度・平成30年度に続き令和元年度は3年連続の黒字決算を納められた。

特別養護老人ホーム アンタレス

平成20年4月1日開設



青祥会第2期中期経営計画および令和元年度運営方針に基づき、地域における医療・介護・福祉の向上とさらなる充実を図るために、各部門において以下の重点施策の達成に向け取り組んだ。

1) 医療・介護サービス向上の取組

利用者が施設ならびに在宅サービスを安全に安心して利用できるよう通常の感染症予防（インフルエンザ、感染性胃腸炎等）を継続すると共に、特に「新型コロナウイルス感染症」に対しては標準予防策の実践に加え、面会中止、出入り業者の制限、職員の出勤前検温等の体調管理と休日における行動自粛要請等、施設内で繰り返し職員の認識を共有し感染拡大の防止に全力で取り組んだ。

2) 地域貢献活動の取組

地域住民や福祉関係機関等から信頼され必要とされる施設を目指し、看護・介護の施設実習や地域の社会福祉協議会、大学、中学校・高校からの福祉体験学習等の受け入れを積極的に行った。（社会福祉協議会外国人実習：延べ4名、聖泉大学・県立看護専門学校実習：延べ87名、北星高校介護実習：延べ126名、中学校・その他福祉体験、交流会等：延べ40名）

3) 人材の確保・育成の取組

人材の確保と育成を最重要課題と位置づけ、当初計画通りの全体研修、入所ユニット研修、在宅部門研修の施設内研修を実施した他、法人主催の専門研修（DVD視聴含む）は延べ427名（前期実績：延べ353名）が受講し幅広い知識の習得に努めた。

また、前年度に引き続き業務の見直しに取り組むと共に、産休・育休の取得後、安心して職場復帰ができるよう勤務条件等の配慮に努めた。

4) 組織強化の取組

入所部門の主任会議・リーダー会議および在宅部門における連携会議等を通して各部門間の連携の強化と各職種間のコミュニケーションの充実を図り、タイムリーな「報告・連絡・相談」の実践により情報の共有化を推進した。また、時間外勤務申請および新勤怠システム（クロノス）の適切な運用を定着化させることにより、各部門における時間外勤務の管理を強化した。

5) 経営基盤充実の取組

- ①入退所に伴う空床日数の管理および短期入所の空床利用の推進等により両部門合計の稼働率は98.6%で前期対比1.8ポイントの増加となった結果、サービス活動利益は大幅な改善を図ることができた。
- ②在宅部門は通所稼働率で78.4%と前期同様高水準を維持したものの、大規模事業への移行等により減益を余儀なくされたが、訪問介護、訪問看護の利用者数が各々前期対比217名および587名の増加となった結果、在宅部門全体でのサービス活動利益は、当期も安定的な収益を確保することができた。
- ③当期サービス活動収支比率は、4.9%（前期実績2.1%）となった。

特別養護老人ホーム 坂田青成苑

平成4年4月21日開設



米原市を拠点として運営する施設として、多様化する地域のニーズを把握し、地域福祉の貢献に尽力しつつ青祥会ケアシステムの構築と実現に努めた。

また、「働き方改革」に伴い業務の見直しを行い、時間管理・有休取得管理に取り組み働きやすい職場環境整備にも努めた。

なお、収益各確保については、通所系サービスにおける更なる稼働実績の確保と拠点全体経費削減に努めたが、修繕費増の影響を受け収益確保に苦慮した年度であった。

1) 医療・介護サービス向上の取組

- ①青祥会ケアシステムの構築に向け地域の特性を踏まえ、利用者や家族が安心して生活していける介護サービスを提供し、全職種が一丸となってシステムの構築と、地域に求められる施設を念頭に置き事業運営を行った。
- ②利用者の心身機能の維持向上を念頭においたサービスの提供に努め、重度化防止への取組と、自立支援に努めた。

2) 地域貢献活動の取組

- ①本年度も米原市生涯学習まちづくり出前講座への積極的な参加した。次年度は、出前講座に参加する職員を再構成し講座内容の更なる充実を行う。
- ②地域に開かれた施設として、米原市より委託されている「ちょっと相談所」を開設しているが、地域での認知度が低く、相談実績が伸び悩んだ。次年度は米原市の取組みに協調しながら情報発信を行う必要がある。

3) 人材の確保・育成の取組

- ①介護人材不足のなか、法人として初めて外国人技能実習生を受け入れ、新たな人材の確保と育成に尽力した。
- ②職員の時間管理の徹底や、ワークライフバランス等多様で柔軟な働き方を模索し、適正な人員配置・

勤務体制の見直しを実施した。特に、法人の業務改善委員会を通じての業務改善には積極的に参画した。

- ③法人と連携し、将来の人材の確保に向け中学等への出前授業や、福祉の職場体験等を積極的に受け入れ、介護の職場のイメージ向上に努めた。

4) 組織強化の取組

- ①看護・介護記録、勤怠管理等の電子化を活用し、法人内の業務の標準化等の取組に積極的に参画し、業務の効率化に努めた。
- ②法人の在宅部会での取組に積極的に参画し、法人内の通所系サービスの業務効率化の実現に取り組んだ。

5) 経営基盤充実の取組

- ①昨年度のインフルエンザ等の感染症発生を踏まえ、今年度は感染症への徹底した対策を実施し、施設入所サービス・短期入所サービスにおいては大きな変動も少なく安定した稼働率を維持し、年間稼働率98.9%を達成する事ができたが、目標稼働率には若干未達であった。
- ②前期比延利用者数は、施設入所・短期:78人減、坂田デイ:911人増、山東デイ:45人増、ケアハウス:7人減、坂田ケアプランの年間件数:103件増であった。

特別養護老人ホーム 青 芳

平成10年10月1日開設



法人の中期経営計画を受けて、次の5つの取り組みを中心に施設運営を進め、入所者・利用者が安心して生活できる施設づくりを目指すとともに、地域福祉の充実に貢献できるよう事業を推進した。

1) 医療・介護サービス向上の取組

- ① 質の高い介護サービスを提供するため、感染症予防・介護事故防止・虐待防止等に取り組むとともに、それぞれの職種における専門性を高め、職種間の連携・協働体制の強化を図った。
- ② 利用者・家族および外部の居宅介護支援事業所の意見や要望を収集し、地域のニーズに合ったサービスの提供に努めた。

2) 地域貢献活動の取組

- ① 地域における公益的な取組の一環として行ってきた出前講座を継続実施した。また看護・介護の実習生を積極的に受け入れたほか、高等学校福祉科教員の介護実習を受け入れた。
- ② 災害発生時に施設が福祉避難所として円滑に機能できるよう、地元自治会との間で相互に防災訓練に参加し合うなど、緊密な連携体制づくりを進めた。

3) 人材確保・育成の取組

- ① 職員間のコミュニケーションを活発にし、多職種が話し合える機会を多く持つことにより働きやすい環境を整え、仕事から過度の量的・質的ストレスを感じることがないような職場づくりに努めた。
- ② 人材確保に向けて、適正な時間管理を行うことにより可能な限り時間外勤務を縮減し、ワークライフバランスのとれた働きやすい職場づくりを目指した。

4) 組織強化の取組

- ① 業務改善や事業のスクラップアンドビルドに積極的に取り組むことにより組織体制の効率化を進め、業務量に見合った適正な人員配置に努めた。
- ② 部署間、職種間の情報共有を緊密にし、リスクマネジメント、防災対応、コンプライアンス遵守等に積極的に取り組んだ。

5) 経営基盤充実の取組

- ① 安定的財務基盤を確保するため、収益構造の見直しを行うとともに、業務プロセスの効率化や無駄な経費の削減に努め、財務体質の強化を図った。
- ② 地域ニーズを的確に把握するとともにサービス内容を見直すことにより、在宅系サービスのさらなる稼働率向上を図った。
- ③ 施設屋上の防水改修工事など中期経営計画に位置付けられた大規模改修を着実に進めた。

特別養護老人ホーム やまびこ

平成11年12月1日開設



1) 介護サービスの向上の取り組み

- ①利用者様の心身の機能回復、重度化防止のため、褥瘡マネジメント加算を新たに算定し、多職種連携による質の高い介護への取り組みを推進した。
- ②認知症に関する研修参加を推進し各種研修に職員を参加させ、認知症介護のスキルアップを図ることにつなげた。
- ③接遇では、「和顔愛語」の精神に基づく接遇改善の取り組みを、職員全体の継続的な運動として定着するよう努めた。

2) 地域貢献活動の取り組み

- ①介護家族に対する支援強化として、町と連携し専門職の出前講座を4回実施した。
- ②中学生の職場体験や大学生等の実習受け入れを積極的に行った。
- ③やまびこ太鼓の出前演奏に積極的に対応していくとともに、やまびこ20周年文化祭において、玄関ロビーにて地域の保育園児の作品を展示する等、地域住民との交流を図った。また、地域の秋祭りのスタッフとしてボランティア参加を行い地域の青年部との交流を深めることができた。

3) 人材の確保、育成の取り組み

- ①働き方改革関連法を踏まえ、仕事と家庭の両立や人材の確保が図れる働きやすい職場づくりを目指した。労働時間に対する職員の意識改革を進めていくとともに、業務の効率化など業務改善による労働生産性の向上に向けて取り組んだ。結果として、時間外の実態を見ることで時間外の傾向（どの職種が多い等）を知ることが出来たが、具体的な時間外への対策は次年度への課題となった。
- ②年間5日以上の有給休暇取得が義務化され、計画的な有休取得を推進した。取得日数は個人によりばらつきがあるものの、最低5日の取得は達成できた。

4) 組織強化と経営基盤の確立

- ①入所とデイサービスセンターで稼働率およびサービス活動増減差額が前年度対比マイナスとなった。特にデイサービスセンターでの年度後半の利用者減少が目立つ結果となった。次年度、役職者を中心に組織強化に努め、稼働率向上を通じ利益率確保に努める。

V

委員会・部会活動

委員会・部会活動 活動内容

中長期構想推進委員会

青祥会の理念と基本方針のもと、医療・介護・住まいや生活支援など患者・利用者等を一体的に支える仕組みとしての地域包括ケアシステムである「青祥会ケアシステム」の構築を目指し、患者・利用者一人ひとりの自立と尊厳を支えるケアを将来に亘って実現していくこととする。この実現に向かって長期ビジョン（10年間）と第2期中期経営計画（3年間）を全職員が一丸となって推進する。

1. 第2期中期経営計画の進行について

- 第2期中期経営計画は、平成30年度から令和2年度までの3年計画である。
- 平成30年度～令和2年度の第3四半期までの中間評価を行った。
- 第2期計画のメインテーマとしての「健全経営の推進」の営業利益率2%以上を目指すことの結果は次のとおりとなった。
 - ・平成30年度:3.36%
 - ・令和 元年度:5.43%
 - ・令和 2年度:5.30%
- また、ワークライフバランスのとれた働きやすい職場環境づくりの推進については、病院・各施設において、業務改善推進委員会を中心に業務改善等の取り組みを進め、鋭意改善を図っている。

2. 和田の森の構想策定について

- 「和田の森」の構想の素案を別途策定した。構想の素案により示された今後の対応等を推進していくこととする。

3. 長期ビジョンの進行について

- 長期ビジョンの進捗状況は、数年間の中期経営計画の進捗状況を把握して評価することとする。

4. 「青祥会ケアシステム」の構築について

- 長期ビジョンと中期経営計画の数年間の進捗状況を把握して評価していくこととする。

人事制度推進委員会

1. 時間外勤務; 厳正な時間管理と業務改善

- クロノスの活用により、厳正な時間管理の徹底に努めた。

2. 人事考課制度の運用実施（研修:日本経営）

- 新人事考課制度最初の令和元年度前期行動評価・業務評価実施に際して、円滑な遂行のため移行措置を検討した。なお、業績評価は当面中止することを答申した。

3. 人事考課に基づく賞与支給及び時期確定

- 令和元年度冬季賞与において、経過措置として従前の運用にも配慮しつつ、新人事考課結果に基づく支給方法を検討した。

4. 勤務形態係数に基づく賞与支給時期検討

- 勤務形態係数に基づく賞与支給時期検討のため、令和元年度前期の夜勤実績に基づく賞与支給額のシミュレーションを行った。

5. 勤務形態係数（賞与支給時の適用調整）

- 勤務形態係数は賞与支給時の適用調整も含め慎重に検討し、夜勤係数の一部を見直した。

6. 昇格制度; 試験制度等詳細設計と新規規定制定

- 令和元年度～3年度以降の年度別昇格試験制度の詳細設計を行い、新たに「昇格・昇進規程（案）」を策定した。

7. 非常勤職員

働き方改革の「同一労働・同一賃金」への具体的な対応の中で、非常勤職員の標準時間給、「職務チェック表」等を見直す。

- 非常勤職員については、同一労働・同一賃金プロジェクトチームで検討することになった。

8. 介護職員処遇改善加算一時金支給の検討

- 介護職員処遇改善加算一時金は、6月に支給済。

9. 介護職員等特定処遇改善加算の対応検討

- 介護職員等特定処遇改善加算については、対応方法を検討し令和元年12月に一時金を支給した。

在宅ケアシステム推進委員会

1. これまでのアンタレス在宅部門を中心としたサービス及び情報連携の範囲を拡大し、長浜メディケアセンター、青浄苑ショートステイ、西部福祉ステーションとの連携を進める。

- 外部居宅介護支援専門員からアンタレスコーディネートとして、通所介護・訪問看護・訪問介護のまとめ依頼が増えてきている。利用者の状態について情報を得た際に、状態に合わせて法人内在宅サービスを紹介し、アンタレスコーディネートから青祥会コーディネートへと拡大させる取り組みを行った。

2. 社会福祉法人としての地域貢献として出前講座を積極的に受け入れ、出前講座を通じて青祥会ケアシステムの広報活動を行い、地域の声に傾聴し、地域支援の在り方を検討する。

- 令和元年度の実績は、依頼地域9地域、出前講座件数15件の依頼を受けて対応した。
- 出前講座の際には、青祥会内の事業を紹介させていただき、併せて人材募集の案内も行った。

3. 在宅ケアシステムの骨組み作り

青祥会ケアシステムにおける、居宅系サービスの連携フローや、居宅ケアマネと各居宅系サービスの連携フロー、在宅支援に係る認知症ケアシステムとの連携などをフロー図として図示し、在宅ケアシステムの具体的な流れの骨子案を作成する。

- 各事業所において、自事業所をコアとした場合の連携フローを考えてもらい、意見交換を行った。
- 基本的なサービス提供の展開に加えて、緊急時の連携やサービスの追加時の連携など、場面ごとのフローについて意見が上がった。
- 場面ごとの具体的なフローを作成し、マニュアルに追加していく。

業務改善推進委員会

1. 業務の効率化

【業務の現状把握と調査・分析結果】

- 勤務表の作成に要する時間については交代勤務をしている職種ほど作成時間を要しており、非常勤で補っていた勤務がいつしか常勤にて補う業務内容となってしまっている現状も明らかとなった。
- 勤務制限については業務内容の制限や勤務時間の制限、個別事情等多岐にわたり上記の勤務作成の時間がかかる要因にもなっている。制限となっている項目や対象、期間等の調査・分析を行い、「業務制限申出書」(案)を作成。現在、様式・運用ルールについて検討中である。
- 各施設フロア(ユニット)ごとの業務内容や人員配置について委員会として現状を把握することができた。

2. 働き方改革への対応

- 勤務間インターバル制度については早出・深夜の勤務形態はなくし職員の休息時間を確保した。次に夜勤の2交代制・3交代制については業務内容を把握した上で2交代制への移行に向けて取り組み、全施設が夜勤始業時間を16時45分からと統一することができた。

医療介護安全対策委員会

1. 事故対策委員会の活動を監督および指導し、事故防止やクレーム対応、紛争拡大防止等に努める

- 委員会での検討事例はなかった。

人権教育推進委員会

- 研修実績については、昨年度と同程度の参加となった。年間委員会を通して、各施設における研修内容、取り組み等について意見交換することができた。
- 定期的に人権啓発に関するポスターを掲示することが出来た。
- 各施設のDVD人権研修におけるアンケート結果の分析を実施した。

1. 職業倫理の周知徹底

- ①各施設の人権研修（全体研修）プログラムに職業倫理についての研修を取り入れ実施していく。
 - 各施設の人権研修プログラムに職業倫理についての研修を取り入れることが出来た。
- ②各施設で実施した人権研修について発表し、意見交換を経て、研修項目等の共有を図っていく。
 - データの収集等について提供することはできたが、データの分析、項目の整理、共有化を図るところまでは至っていない。

2. 「働きやすい職場づくり」への具体的な対応と実践に取り組む

- ①法人各施設間において、人権全般に関するDVDによる共通の研修を実施し、アンケート集計結果をもとに人権・倫理についての関心度等を高めていく。
 - 全職員を対象としたDVD研修、メンタルヘルスについての研修を実施し、アンケート結果に基づく人権への関心度をあらためて確認することが出来た。
- ②職場内の人権啓発活動を目的として、人権啓発等に関するポスターの掲示やニュース、話題等を取り上げ、人権啓発を推進する。
 - 2019年度も昨年度同様、人権啓発等に関するポスターを掲示し、定期的に更新することが出来た。
- ③施設内で身近に取り組める啓発活動について意見聴取を行い、上記以外の新しい取り組みについて検討、実施に繋げていく。
 - 各施設内において身近なトピック等、収集した情報を伝達することは出来た。

教育研修委員会

1. 計画的な研修体制の確立と人材育成

(1) 新入職員・中途採用職員研修

研修名	研修日	参加者数
新入職員・中途採用職員研修	4/1・4/2	28人

(2) 階層別研修

リーダーシップ応用編		
・係長研修	6/25 AM	14人
・管理職研修	6/25 AM	28人
リーダーシップ基礎編		
・中堅職員研修	9/18 AM	24人
・リーダー研修	9/18 PM	31人
役職者とリーダーシップの考え方		
・主任・副主任研修	11/15 AM	22人

(3) 専門研修

研修名	実施日	参加者	DVD視聴率
薬の知識	5/29	32人	54.6%
基本動作介助	6/10	28人	48.9%
認知症排泄行動	7/31	34人	45.3%
睡眠ケアのポイント	8/22	28人	42.0%
症状別対応	9/19	28人	39.3%
実践！標準予防策	11/25	27人	46.7%
接遇（外部講師）	12/12	31人	38.1%

2. 第17回研究発表大会

- 新型コロナウイルス感染症拡大対応として中止

3. 接遇・その他

- 講師
成川洋子氏（滋賀県介護福祉士会副監事）
- テーマ
「相手の立場に立つ“接遇”」
～そのとき 自分自身の姿が見えていますか？～
- 視聴率は「38.1%」で目標にしていた40%には及ばなかったが、過去最高値となった。
- 接遇に関する他の取り組みは実施できなかった。

感染症対策委員会

1. 医療・介護サービス向上の取組

- ① 利用者の体調管理を適切に行い、異常の早期発見と初期対応の徹底により、感染症の蔓延を防止する。
 - 異常の早期発見と初期対応の徹底により、感染症の蔓延は防止できた。
- ② 感染症対策マニュアルの見直し・改訂を行い、感染症発生予防につなげる。
 - 厚生労働省からの最新の情報を基に法人の感染症対策マニュアルの見直しを行っている。

2. 地域貢献活動の取組

- ① 施設、在宅介護者向けに、感染症対策に関する啓蒙活動を行う。
- ② 感染症対策について、各施設・事業所の広報誌を活用し発信する。
 - 咳エチケット、手洗い方法等について掲示し、施設や事業所に訪れる家族を含む地域の方々へ感染症対策に関する注意喚起を行うことができた。

3. 人材の確保・育成の取組

- ① 感染症発生予防と感染症蔓延防止の理解と、マニュアルに基づく対応が標準的に行うことができるように専門研修や施設内研修を行う。
 - 施設内研修を各施設で感染症対策委員会を中心に実施した。
 - 11月に「実践!正しい標準予防対策」と題し専門研修を実施した。
- ② 研修でブラックライトによる手洗いの演習を行い、標準予防策の必要性を周知させる。
 - 各施設ブラックライトを使用した手洗い研修を実施し、標準予防策の徹底に努めた。

4. 組織強化の取組

- ① 地域や各施設の感染症発生状況を共有し、適切に対応することで感染症蔓延防止に努める。
 - 地域の感染症情報を伝達し、法人内での感染症発生時は感染症FAX用紙を活用し情報を共有することができた。

- ② 感染症発生時は、フローチャートや感染症FAX用紙を活用し、速やかに発生状況を発信し、施設間で情報交換を行い、新たな感染症発生予防及び、迅速な終息を図る。
 - 感染症発生フローを作成し、施設内で感染症発生時速やかに対応できるように体制の整備ができた。
- ③ 感染症対策に関する業務の効率化を図り、残業等が最小限となるように努める。
 - 感染症の蔓延等はなく感染症に対する残業等が最小限に抑えられた。

5. 経営基盤の強化

- ① 標準予防策を徹底し、感染症発生予防と蔓延の防止により、稼働率低下や社会資源利用が滞ることがないように努める。
 - 標準予防策の徹底に努めることで、感染症の発生による、稼働率の低下や社会資源の利用の停滞を最小限に抑えることができた。
- ② 衛生物品等を見直し、法人内で一括購入することで不要な経費の削減に努める。
 - 手指消毒剤を法人内で統一したが、他の衛生材料についても看護部会とも協力し法人内で一括購入できる体制を整えている。

介護保険対策委員会

1. 令和元年10月予定の消費税改定に伴う介護保険サービス、保険外サービス（居室料、食費等）の料金改定作業と利用者への周知を円滑に推進する。（総合事業を含む）

- 令和元年10月消費税増税に伴う介護保険サービス、保険外サービス（居住費、食費等）の改定について、滞りなく準備を進めることができ、利用者へも遅滞なく周知することができた。

2. 今年度予定されている社会福祉法人等指導監査指摘事項の検討や対応が必要となる運営規程、重要事項説明書の見直しを行う。

- 各事業所の指導監査指摘事項について情報共有及び検討を行い、重要な指摘箇所については重要事項説明書の改定を行った。

3. 介護報酬加算算定についての施設間の比較検討を継続的に行うことにより、介護保険料収入の増収に寄与する。

- 介護報酬加算算定について、施設間の加算算定状況を比較し、各施設での請求の可否について検証を行った。

4. 令和3年4月報酬改定に向けた介護給付費分科会での審議経過等の情報収集、情報共有化を進める。

- 令和3年4月介護報酬改定に向けた介護給付費分科会の審議経過等の情報収集を行い、動向の把握に努めた。

事故予防対策委員会

1. 誤薬事故発生件数減少への取り組み

- ① インシデントⅡの発生率の半数以上を占めている「誤薬」の発生状況を詳細に分析し、対応策を講じることで、発生件数の減少を目指す。
 - 施設毎の発生率と誤薬内容の傾向を提示し、対応策を検討した。
 - インシデントⅢにおいて60%を占めている誤薬事故は薬物落下を主な要因としていることに注視し、ケアの見直しと強化を確認・共有した。

2. 巡回式危険予知トレーニングの実施

- ① 職員の事故予見能力や分析する力を高めるため、各施設の事故予防対策委員会において、10分程度の巡回式危険予知トレーニングを実施する。
 - 各施設の実施状況
職員会議や委員会開催前に実施している。
 - トレーニングの実情
危険な場面や環境について、現場で指摘はしているが単に「巡回」で終わっているのではとの懸念がある。

3. 対応困難事例の研修

- ① 委員会の中でミニ研修としてインシデント発生後の対応困難事例について関係誌を教材に学び、自施設でも伝達し法人全体で学ぶ機会を設ける。
 - ミニ研修 実施回数:3回/年
 - 研修内容

実施月	研修内容
8月	転倒事故（見守り強化で予防できるか）
11月	①誤薬(人間違い) ②誤嚥(救急要請6分以内)
2月	①ブレーキ確認 ②入浴環境・機器

4. 事故報告書様式の検討

- ① 看護介護記録の電子化に伴い、現行の事故報告書の内容を基本としつつ、記載項目、記載方法の簡素化に重点を置いて、様式のカスタマイズについて検討する。
 - これまでの検討内容を踏まえて、加筆修正する作業が終了しカスタマイズした報告書について、最終的な見直しを行い、委員による試験入力を実施した。
 - 試験入力の際に生じた不具合等の情報を収集し分析後、「ちょうじゅ」のシステムに組み込む予定。

身体拘束適正化検討委員会

1. 身体拘束適正化の推進

- ①職員一人ひとりが身体拘束の身体的・精神的弊害を理解し、身体拘束をしないケアを実施するよう「身体拘束適正化のための指針」の適切な運用に努める。
- 職員会議や研修等で「身体拘束適正化のための指針」の読み合わせや確認をした。

2. 新規採用時および定期的な研修の実施

- ①4月の新入職員研修時に身体拘束等の適正化のための研修を開催する。
- ②各施設においては、身体拘束に関する研修を年2回以上実施するとともに、中途採用職員を対象とした研修を実施する。
- ③各施設で開催する研修に対し資料提供等の支援
- 全施設において「身体拘束適正化のための指針」に定められている下記研修実績の確認。
 - (1) 新入職員・中途採用職員採用時研修
 - (2) (1)以外に2回/年以上の研修

3. 日常ケアの見直し

- ①身体拘束を行わずにケアを行うために、身体拘束を誘発する原因を除去し、5つの基本ケアを確認することで、より良いケアを目指す。
- 実施状況;3回/年
 - 研修内容

実施月	研修内容
8月	センサー使用は未然防止策か
11月	身体拘束解除するための要因
2月	5つの基本的ケアの考え方・活用

4. センサーマットの使用状況の把握

- ①各施設における使用状況のデータを収集し、センサーマット類の過剰使用、乱用を防止する。
- センサー使用頻度は、一律短期利用者が多いわけではなく、施設で差があった。
(老健;入所>短期)
 - 平均使用率の経過
(5か月平均;入所32.5% 短期39.9%)

	10月	11月	12月	1月	2月
入所	38.0%	30.3%	31.3%	31.2%	32.0%
短期	32.3%	43.2%	39.8%	43.6%	40.7%

*入所最大値 (50.3%) 短期最大値 (72.3%)

広報委員会

1. 法人広報誌「かしょう(嘉祥)」発行

- 令和元年10月に第4号、令和2年4月に第5号を予定通り発行した。

2. パンフレット等作成

- 病院用と施設用の2020年度求人パンフレットは、委員会で意見を出し、一部改訂した。パンフレットは、学校訪問や就職フェアで活用できた。
- 新しい求人ポスターを作成し、定期的に委員会メンバーで更新し、施設に掲示した。介護に係るリーフレットは、内容を検討中。

3. 職種紹介ビデオの作成

- 以前に作成したビデオは介護の仕事の紹介だったが、今年度は介護の楽しさや魅力を伝えるビデオの作成に新たに取り組んだ。撮影は、撮り終わっているが、委員会の中で、時間内に収まるバックミュージックや写真内容についての意見があり、編集 중이다。

4. ホームページについて

- 法人ホームページの外部からのアクセス状況を調べ、どの地域から多く閲覧されているのか、また、どのデバイスで閲覧しているのかを調べた。

ITシステム構築委員会

定期的に委員会を開催し、法人のIT推進について継続的に協議、方向性を決定したうえで、具体的な対策に取り組むことができた。

1. グループウェア (desknet's NEO) 導入の検討

- グループウェア (desknet's NEO) を導入、10月から運用を開始した。
- スケジュール管理、インフォメーション、回覧・レポート等の機能の活用により、業務の効率化、ペーパーレス化の推進が図れた。
- 一方で、スケジュールが入力されていない、回覧が閲覧されていない等、利用者への啓蒙が進まなかった。

2. 法人内 Windows7

延長サポート終了 (R2.1.14) の対応

- Windows7延長サポート終了対応については、本部システム担当と連携し適切に対応することができた。

看護部会

1. 医療・介護サービス向上の取組

- ① 青祥会ケアシステムの構築に向けて地域の特性や資源を活かし、高齢者等が安心して生活できるように、地域包括ケアの活性化を図る。
- ② 施設間の連携強化に努め、質の高い医療・介護・福祉サービスの提供に努める。
 - 11月13日にフォローアップ研修会を開催し21名の参加があった。

2. 地域貢献活動の取組

- ① 看護学生・介護実習生や小中学生の職場体験を積極的に受け入れ、将来の医療・介護分野を支える人材の育成に貢献する。
- ② 「看護の日」のイベント、及び看護分野の出前講座や出前事業を積極的に行い地域との交流を深める。
 - 当初の計画通り看護学生の受け入れ、及び各研修の講師を務めた。また、社協委託事業の外国人向け初任者研修も講師として参加した。

3. 人材の確保・育成の取組

- ① 働き方関連法 (有休5日、時間管理等) に取り組み、ワークライフバランスの取れた働きやすい職場環境づくりを目指し、職員のメンタルヘルスケアを行い離職防止に努める。
- ② 次世代の人材育成に向けて、フォローアップ研修、再就職セミナー、病院・施設見学会を実施する。
 - 再就職相談会に社会福祉協議会からの紹介により1名の参加があった。

4. 組織強化の取組

- ① 「ちょうじゅ」を有効的に実践活用し、各施設間の連携強化と業務改善に取り組む。
- ② 災害や感染症発症時など、非常事態を常に想定し組織間の協力体制を強化し、迅速な対応が出来る。
 - 共通フェイスシートの使用を開始し、施設間の情報共有に努めた。

5. 経営基盤充実の取組

- ① 費用対効果を見極め、資源の有効活用と無駄な支出を削減する。
- ② 稼働率の向上に努め、サービス活動収支比率2%以上の収益確保を努力目標とする。
 - 業者を一本化する事によりコスト削減に繋がった。

栄養士部会

1. 医療・介護サービス向上の取組

- ① 多職種と連携し適切な栄養ケアマネジメントを実施することにより、利用者の栄養改善に努め、健康維持とADL向上につなげていく。
 - 多職種とのカンファレンスや栄養ケアマネジメントにより、問題点の早期発見に努め、状態に応じた食事提供を行うことで、栄養状態の改善や維持に繋げることができた。又、経口摂取支援に取り組み、嚥下機能の維持や向上に努めることができた。
- ② 献立のマンネリ化防止と嚥下機能に合わせた食事形態の充実を図る。
 - 嗜好を反映させた食事の提供、嚥下調整食として統一された食事の提供ができた。

2. 地域貢献活動の取組

- ① 在宅の利用者、地域住民の方や介護者等に向けて、栄養教室、出前講座、広報誌等を通じて情報発信を行う。
 - 在宅やケアハウスの利用者に対し、食事のアドバイスを積極的に行うことができた。
 - 広報誌による、栄養や衛生に関する情報の掲載や、出前講座での情報発信を行うことができた。
- ② 積極的な実習生の受け入れを行い地域貢献に努める。
 - 申し入れのあった施設では、実習生を受け入れることができた。

3. 人材の確保・育成の取組

- ① 施設内外の研修会に積極的に参加して専門知識の向上に努める。
 - 施設内外での研修会により、専門知識の向上に努め、新しい情報の習得を行うことができた。
- ② 職員に対して衛生管理や食中毒予防についての啓発を行う。
 - 職員に対して、食中毒予防や衛生管理についての研修を実施し、食中毒注意報が発令された際には、注意喚起を行った。

4. 組織強化の取組

- ① 各施設間の情報を密にし、適切かつ統一された食事サービスが提供できるように取り組む。
 - 各施設の情報交換を行い、栄養基準の見直しや問題点の改善を通じて、統一された食事サービスが提供できるよう取り組むことができた。又、法人内での情報伝達を迅速に行うことができた。
- ② ちょうじゅシステムを通じて、多職種間での情報共有をおこない利用者の状態把握と栄養改善を積極的に取り組む。
 - ちょうじゅシステムを有効活用することで、情報の収集や発信に活用することができた。

5. 経営基盤充実の取組

- ① 付加食品やトロミ剤の使用状況を定期的に見直し経費削減に努める。
 - 付加食品や濃厚流動食、トロミ剤などは適宜使用状況を確認し、適切な見直しと、無駄のない使用方法により経費削減に努めることができた。
 - 物品の在庫管理や、給食材料費の確認を行うことで食材費の適正使用ができた。
- ② 厨房機器の異常の早期発見による修繕費の削減と光熱費の無駄をなくし経費削減に努める。
 - 厨房機器の不具合について、委託業者と連携をとり、早急に対応することができた。

ケアワーカー部会

1. 医療・介護サービス向上の取組

- ①施設間の情報交換を行い、各施設の介護サービスの統一化と標準化を図る。
 - 部会ごとに意見・情報交換を行うことができ、各施設の介護サービスの現状分析を行った。
- ②各施設間の連携をより一層図り、認知症の知識と理解を深め、個別ケアの充実に努める。
 - 認知症困難事例について情報交換を行うことができた。専門研修「認知症ケア」の受講率向上に努めた。
- ③事故予防対策委員会と連携し、誤薬事故防止「誤薬ゼロ」に向けて取組む。
 - 事故予防対策委員会とは常に連携を図り、インシデント件数の減少と誤薬事故防止に努めた。
- ④高齢者の権利擁護に対する知識と理解を深め、虐待や身体拘束、不適切ケアの防止に努める。
 - 指針の読み合わせ含め、身体拘束について新人研修にて実施することができた。

2. 人材の確保・育成の取組

- ①実践的な専門研修等を通して、介護職員としての必要な知識・技術の研鑽に努める。
 - 研修テーマについては過去の研修内容も踏まえて検討し、ケアワーカーが実践できる内容で研修が実施できた。
- ②専門研修やレポート提出の管理を行い、積極的な聴講を促すことで、職員個々のスキルアップに努める。
 - 施設ごとにレポート提出率に差があり、提出率が低い施設においては提出率の高い施設から啓発方法等の指導を受けて取り組んだ。
- ③各施設の新人指導の方法や内容等について協議を行い、「新人職員育成の進め方」の改定を行う。
 - 職務評価表と連動させて新人職員への指導に取り組んだ。新人職員は自立ができ、職務評価表へシフトしている。
- ④各施設の業務内容やシフト状況を検証し、業務全般の見直し、改善等に繋げていく。
 - 業務改善推進委員会と連携を図り、シフトの統一に向けて取り組むことができた。

3. 組織強化の取組

- ①記録電子化を経て、運用上の課題について情報交換し、適切な入力等が実施できているか検証していくなかで、記録業務の簡素化と簡略化を図る。
 - ちょうじゅでの記録業務は行えるようになったが、施設ごとに統一して記録している項目において部会にて情報共有を行う段階に達した。
- ②請求業務との連動に向けて電子化の適正化を図る。
 - 請求業務との連動に向けてケアレポートを作成し、さらに記録の整合性を高めていく必要がある。

4. 経営基盤充実の取組

- ①オムツや消耗品の使用を見直し、適正な物品管理と経費削減に努め、排泄の自立支援に向けて取り組む。
 - オムツの使用量についてはどの施設においても大きな変動はなく横ばいの数値を保っている結果となった。

相談員部会

1. 利用者情報の共有化と事業者間連携の強化

- ① ショートステイと法人内居宅ケアマネ間の事業者情報の共有化
 - 法人内居宅ケアマネ部会と連携し、ショートステイについてアピールシートを作成し、特色や利用について、家族へ提案しやすくなる体制について提案を図った。
- ② 将来のカスタマイズに備えショートステイ(特養)ケアプランの様式の統一化
 - ショートステイ用のケアプランについて、様式の共有を行いサービスの統一化を図った。

2. 介護保険分野のサービス自己評価の円滑な運用

- ① 第三者評価導入に向けた効果的な自己評価方法の検討
 - 相談員部会を中心に自己評価について実施したが、法人内施設により評価が異なる項目があった。
 - 他法人で実施している第三者評価について情報共有を行った。

3. 相談員の業務改善と時間外勤務の削減方策の検討

- 働き方改革による残業管理について、各施設相談員業務について時間内に終える意識を確認し、時間外の理由について調査を行った。
- 電子カルテによる情報共有を行い事務作業の簡素化を図った。

4. セフィロト病院入院システム活用等による関係機関の連携強化

- 必要時には主治医と連携し、セフィロト病院入院システムの活用等で情報共有および連携を図った。

事務部会

1. 人事部門

- ① クロノス活用による事務の効率化・標準化
 - 勤怠簿の自動作成が可能となり、有休発令時等の計算において有効活用が図れた。事務作業の効率化に繋がった。
 - 年次有給休暇発令は、未だ正確な出勤率の算出ができない為、自動発令は正確なデータが1年分確定した後となる。
 - 冬期賞与よりクロノスデータを活用することにより、事務作業を無くすことができた。
- ② クロノス活用による勤怠管理
 - 年次有給休暇取得状況が、一覧で確認可能となった。

2. 経理部門

- ① 標準事務手順書の作成
 - 事務処理を標準化し、予算・補正予算・決算の処理の流れを統一した。
- ② 他システムからの連動処理による効率化
 - 集中化できる業務について、本部一括処理に移行した。(給与処理・国税)
 - ゆうちよBizダイレクトを導入した。

リハビリ部会

1. サービスの質の向上

①満足していただけるリハビリテーションが実施できるよう、知識や技術の向上を図る。具体的には、施設内でのリハ専門職の勉強会を定期的で開催することや、年に3回程度両老健の合同勉強会を実施する予定であり、勉強会にて知識技術の向上に努める。

- 各施設内でのリハ専門職の勉強会は症例検討を中心に5月から定期開催できており、合同勉強会も実施した。

②加算算定要件となる研修に参加し、資格習得を心がける。

- 加算要件に関する研修会には現在のところ参加できていない。

2. 人材育成

①卒業教育に努め、新人評価表等を用い指導にあたる。県士会の新人教育プログラム履修状況等も確認する。

- 取り組み課題とその達成状況をレポートで確認しながら進捗状況に合わせて担当利用者の受け持ち件数を調整した。

②特別養護老人ホームや通所介護へ出向き、介助、技術の向上を図れるよう指導する。また法人内他施設の加算算定にも協力する。通所リハビリテーション卒業者を法人内デイサービスに移行できるよう、機能訓練内容についても連携を強化する。

- 通所介護等への指導に月に2～3回出向き連携強化に努めている。

長浜メディケアセンター

生活機能向上連携加算の指導として通所介護へ計46回130件、特別養護老人ホームへは4回8件実施。その他加算外で特別養護老人ホームへ2回6件の指導を実施。

坂田メディケアセンター

生活機能向上連携加算の指導として通所介護へ計54回103件実施。

3. 経営基盤の充実に図る

①リハビリテーションに関わる加算算定状況の把握を行い、適正かつ積極的な加算算定に繋げる。介護報酬算定に対して体制等に不備が生じないよう情報収集、共有に努めると共に両老健共に超強化型老健として運営していくため、リハビリ職員の勤務時間を適正に管理し、運営に影響がでないように、細かく管理できる体制を作る。

- セラピストの配置状況について訪問等施設を離れる際は分単位で時間管理を行い報告書の作成を行った。

②通所リハビリテーションについてはリハビリ付きデイサービスとの違いや特徴をケアマネージャーに知ってもらえるように、パンフレットなどを作成して活用していく。

また稼働率向上に取り組むと共に、卒業できる人も確保していくことで、通所リハビリテーションとしての役割を果たす。

● 長浜メディケアセンター

年度実績は一日平均利用者24.28人、稼働率60.71%と前年度より増加している。リハマネジメント加算Ⅲ算定者5名。修了者10名。短期集中リハビリテーション加算、認知症短期集中リハビリテーション加算算定にも積極的に取り組んでいる。

● 坂田メディケアセンター

年度実績は一日平均利用者19.23人、稼働率48.09%。修了者3名。短期集中リハビリテーション加算、認知症短期集中リハビリテーション加算算定にも積極的に取り組んでいる。

施設ケアマネ部会

1. 医療・介護サービス向上の取組

- ①安心・安全に過ごせるように自立支援・重度化防止に資するケアが提供できる個別性のある施設サービス計画書を立案する。
 - 個別性のある施設サービス計画書を多職種と連携をしながら立案し、実行管理を行った。
- ②多職種が協働し、加算が適正に算定できるように支援計画を作成し管理する。
 - 加算要件を満たせるように情報共有に努め、書類を整備することができた。
- ③中重度者へのケアの質的向上に努め、看取り介護の体制強化をPDCAサイクルにより推進する。
 - 施設ごとに看取り介護終了後の体制に違いがあり、部会にて情報共有を行った。

2. 地域貢献活動の取組

- ①住み慣れた地域での生活が継続していけるように施設ケアマネとしての役割を発揮し、地域への出前講座への積極的な参加など、地域に開かれた施設づくりを目指す。
 - 地域貢献活動として出前講座など専門職として参加することができた。

3. 人材の確保・育成の取り組み

- ①各施設での課題等、施設ケアマネ間で相談しやすい環境を作り、法人全体の施設ケアマネの資質向上を目指す。
 - 部会以外でも施設ケアマネ間での情報共有や情報交換は実施できている。
- ②法人研修や内部・外部の研修に積極的に参加し、自らの専門性を高める。
 - 計画通りに研修を開催することができ、自らの専門性を高める機会となった。
- ③各施設ケアマネの業務全般を検証し、業務内容の見直し、業務改善に繋げていく。
 - 施設ごとに受け持ち人数には差があり、業務内容も多岐にわたることが把握できた。

4. 組織強化の取組

- ①電子化による業務の効率化を図り、時間管理を徹底することで働きやすい職場づくりに繋げる。
 - 電子化によりプラン作成等の業務の効率化は図れている。記録の内容については多職種との連携が必要である。
- ②CW部会や相談員部会等との情報共有により連携強化を図り、法人施設間で統一したアセスメントツールの作成およびマニュアル改定を目指す。
 - ちょうじゅシステム導入にて老健についてはR4での立案となり、マニュアルの見直しを行っていく。

居宅ケアマネ部会

1. 法人向け紹介率向上の取り組み

- ①法人内サービス事業所の特徴や売りについて積極的に発信できるよう、相談員部会や通所部会と連携しつつ情報収集の場（プレゼンテーション等）を設定し活用を図っていく。
- ②法人内の各種サービスに係る利用者や家族からの要望や地域のニーズを積極的に捉え、各事業所にフィードバックすることでサービスの向上に寄与する。
- ③常に法人内サービス事業所への紹介率を分析し、法人全体として地域に貢献できるよう取り組む。

プレゼンテーションの実施

開催日時 令和元年7月9日（火）14時～

会場 アンタレス4階研修室

参加者 37名

ケアプランセンター（5事業所15人）、通所部門（9事業所18人）、ヘルパーステーション、訪問看護ステーション

- 各事業所から特徴を踏まえたプレゼンが行われた。併せてサービス内容を網羅した一覧表の提供もあり、情報収集に成果があった。

2. 居宅介護支援業務の質の向上

- ①制度理解や業務改善について情報交換を積極的に行い、業務の効率化と質の向上を図る。
 - 市が示した自己点検表による業務の振り返りを行うことで、次年度に実施される見込みの監査に向けた取り組みが容易になった。

3. 記録電子化に伴う課題への取り組み

- ①記録電子化の運用状況を情報交換しながら課題の把握や改善に向けた検討を行い、一層の業務効率化を図る。
 - 懸案であったフェイスシートの作成について、カスタマイズ化による整理ができた。

通所部会

1. 各事業所の特徴を法人内居宅介護支援専門員に案内し、サービス利用に繋げる

- ①法人内居宅介護支援専門員に対して、各事業所の基本サービス、提供できる加算サービス、さらに事業所のアピールポイントを通所部会においてまとめて一覧表示し、利用者の状態・状況に応じた事業所紹介に繋げる。
 - 法人内の居宅介護支援専門員ならびに施設計画担当介護支援専門員等を対象に、通所リハビリテーション・通所介護・訪問看護・訪問介護・ショートステイについて、各事業所から事業所紹介のプレゼンテーションを行ってもらい、個々の事業所の特徴を周知できた。また、顔の見える関係作りを行うことで、利用者に関する個々の要望を相談しやすい環境を作ることができた。

2. 青祥会内通所介護事業所の営業範囲の調査と重複区域の分担検討

- ①送迎対応範囲が重複している事業所があるため、送迎所要時間や対象となる高齢要介護者の人口分布などをもとに、各事業所の送迎範囲を再検討し、重複地域からの依頼については事業所間で利用調整を図るなどの連携の流れを模索する。
 - 対象全事業所の現状の送迎範囲と実施可能な送迎範囲の調査を終了した。
 - 事業所管理者ならびに管理職等と協議してもらい、個々の事業所の条件のみで修正送迎範囲の調査を行った。

3. 各事業所の稼働率や加算算定状況、人員配置などの情報を共有し、それぞれの事業所の特性を知ることで自事業所の業務及びサービス改善につなげる

- ①加算算定の手順や計画書作成の具体的内容、役割分担など、事業所ごとに異なる状況を情報交換し、他事業所の良い取り組みを参考にして、稼働率アップにつながるきっかけづくりを行う。
 - 各事業所の稼働率や新規依頼状況などの報告を行ってもらい、空き状況や新しい取り組みなどを共有することで、法人内他通所系事業所からも新規依頼の二次的紹介を行いやすくなった。

VI

教育研修・外部表彰

教育研修

教育研修実績

対象者		研修内容	開催日	参加者数
新人研修	新入職員	新入職員・中途採用職員研修	平成31年4月1日(月)	28
		新入職員・中途採用職員研修	平成31年4月2日(火)	28
階層別研修	3級職・4級職	中堅職員研修	令和元年9月18日(水)	24
	リーダー・サブリーダー	リーダー研修	令和元年9月18日(水)	31
	主任・副主任	主任・副主任研修	令和元年11月15日(金)	22
	係長	係長研修	令和元年6月25日(火)	14
	管理職	管理職研修	令和元年6月25日(火)	28

対象者		研修内容	開催日	参加者数	DVD視聴率
専門研修	全級職	①薬の知識	令和元年5月29日(水)	32	54.6%
		②基本動作介助	令和元年6月10日(月)	28	48.9%
		③認知症排泄行動	令和元年7月31日(水)	34	45.3%
		④睡眠ケアのポイント	令和元年8月22日(木)	28	42.0%
		⑤症状別対応	令和元年9月19日(木)	28	39.3%
		⑥実践！標準予防策	令和元年11月25日(月)	27	46.7%
		⑦接遇	令和元年12月12日(木)	31	38.1%
研究	全級職	第17回研究発表大会	令和2年3月15日(日)		新型コロナウイルス感染防止のため中止

学会・研究会等発表

施設名	開催日	学会・研究会名	演 題
長浜 メディケア センター	令和元年7月23日	令和元年度 滋賀県介護老人保健施設協会 合同発表大会	予測できない災害に備えて ～利用者安全確保を目指して～
	令和元年11月20日、21日	第30回 全国介護老人保健施設記念大会 別府大分	通所リハビリが地域で力を発揮していくために ～地域包括ケアシステムのおける私達の役割～ あなたは本当に熟睡できているの？ ～眠りスキャンから見えた排泄支援～
坂田 メディケア センター	令和元年7月23日	令和元年度 滋賀県介護老人保健施設協会 合同研究発表会	在宅復帰・在宅支援の 強化と稼働率の安定確保に向けて
	令和元年11月21日	第30回 全国介護老人保健施設記念大会 別府大分	在宅復帰・在宅支援の 強化と稼働率の安定確保に向けて
	令和2年2月21日	第38回 滋賀県社会福祉学会 自由研究発表	家族との信頼関係を築くためのはじめの一歩 ～家族とのコミュニケーションの重要性を再認識する～

講演会・研修会等発表

施設名	開催日	学会・研究会名	演 題
セフィロト 病院	令和元年7月20日	日本精神科看護協会 初任者研修	精神科看護師の役割と 隔離・身体拘束に頼らないケアを考える
長浜 メディケア センター	令和2年2月21日	第38回滋賀県社会福祉学会	家族も加わる看取りケア ～家族の不安を軽減するために～
アンタレス	令和元年6月14日	精神科訪問看護基本研修会	事例検討研修会
坂田青成苑	令和元年6月13日	米原市生涯学習 まちづくり出前講座	No.110 誤嚥予防体操でおいしく食べよう
	令和元年11月9日	米原市生涯学習 まちづくり出前講座	No.117 認知症ってどんな病気
	令和元年11月18日	福祉学習 (大原小学校5年生)	福祉についての基礎的な学び
	令和元年11月19日	米原市生涯学習 まちづくり出前講座	No.110 誤嚥予防体操でおいしく食べよう
	令和元年12月3日	福祉学習 (大原小学校5年生)	福祉についての基礎的な学び
青芳	令和元年12月6日	カフェ相談会	施設紹介、介護相談会
	令和元年12月26日	びわ南小学校放課後児童クラブ 出前講座	年をとるってどういうこと？
やまびこ	令和元年7月7日	愛荘町刈谷地区出前講座	楽に行う介護方法 体位交換・移乗動作 編
	令和元年11月27日	愛荘町東円堂出前講座	体操や頭を使うレクリエーション
	令和元年12月8日	愛荘町刈谷地区出前講座	楽に行う介助方法 排泄介助・食事介助 編

外部表彰

外部表彰受賞者数

表彰名	表彰日	所属	受賞者数
長浜市功績者表彰	令和元年11月2日	セフィロト病院	1
滋賀県老人福祉施設協議会会長表彰	令和元年11月14日	青浄苑	3
		アンタレス	3
		坂田青成苑	10
		山東デイサービスセンター	2
		青芳	3
		ケアプランセンター青芳	1
		やまびこ	3
		秦荘ケアプランセンター	1
		合計	26
滋賀県社会福祉協議会会長表彰	令和元年11月15日	長浜メディケアセンター	5
		坂田メディケアセンター	3
		青浄苑	3
		南長浜地域包括支援センター	2
		アンタレス	4
		アンタレスホームヘルパーステーション	1
		坂田青成苑	2
		坂田デイサービスセンター	1
		山東デイサービスセンター	4
		青芳	2
		ケアプランセンター青芳	1
		ケアハウス アシ・アエ	1
		やまびこ	2
		合計	31
滋賀県民間社会福祉事業職員共済会 永年勤続会員表彰	令和元年11月20日	青浄苑	5
		青芳	1
		ケアハウス アシ・アエ	1
		法人本部	1
合計	8		
社会福祉関係功労者 愛荘町社会福祉協議会会長表彰	令和元年12月7日	やまびこ	4
精神保健福祉事業功労者 滋賀県知事表彰	令和2年1月26日	セフィロト病院	1
滋賀県精神保健福祉協会表彰	令和2年1月26日	セフィロト病院	2
病院業務功労者 滋賀県知事表彰	令和2年2月2日	セフィロト病院	1
滋賀県病院協会 優秀職員会長表彰	令和2年2月2日	セフィロト病院	1
滋賀県病院協会 永年勤続会長表彰 (勤続15年以上)	令和2年2月2日	セフィロト病院	2
受賞者数合計			77

VII

行事

飛祥会 親睦旅行 (令和元年7月~12月)



和倉温泉 (1泊2日)



	日程	参加者
1班	7月24日(水) ~ 7月25日(木)	32名
2班	8月22日(木) ~ 8月23日(金)	40名
3班	8月28日(水) ~ 8月29日(木)	44名
4班	9月11日(水) ~ 9月12日(木)	42名
5班	10月10日(木) ~ 10月11日(金)	43名
参加人数合計		201名



小豆島 (1泊2日)



	日程	参加者
1班	9月 2日(月) ~ 9月 3日(火)	41名
2班	9月25日(水) ~ 9月26日(木)	45名
3班	10月 3日(木) ~ 10月 4日(金)	42名
4班	10月15日(火) ~ 10月16日(水)	42名
参加人数合計		170名



ユニバーサルスタジオジャパン(日帰り)

	日程	参加者
平日1班	10月29日(火)	28名
平日2班	11月20日(水)	43名
土曜1班	10月19日(土)	37名
土曜2班	11月 9日(土)	28名
土曜3班	11月30日(土)	29名
参加人数合計		165名

劇団四季(日帰り)

	日程	参加者
平日1班	11月15日(金)	35名
平日2班	11月27日(水)	35名
土曜1班	12月21日(土)	23名
参加人数合計		93名

ギア鑑賞(日帰り)

	日程	参加者
1班	9月30日(月)	26名
参加人数合計		26名

令和元年
6月14日(金)

参加人数
257名

飛祥会 新人歓迎ボウリング大会



令和元年
9月8日(日)

第18回 青祥会 理事長杯争奪ソフトボール大会

優勝 セフィロト病院
準優勝 アンタレス



令和元年
11月17日(日)

第13回 青祥会 理事長杯争奪ソフトバレーボール大会

優勝 坂田メディケアセンター
準優勝 セフィロト病院



令和元年
12月6日(金)

参加人数
496名

飛祥会 忘年会

会場 ホテル&リゾート長浜



VIII

数値・統計データ

社会福祉法人 青祥会 計算書類

貸借対照表

令和2(2020)年3月31日現在

資産の部		負債の部	
流動資産	2,749	流動負債	418
固定資産	9,650	固定負債	504
基本財産	3,012	負債の部合計	922
その他の固定資産	6,638	純資産の部	
		純資産の部合計	11,477
資産の部合計	12,399	負債及び純資産の部合計	12,399

単位：百万円

事業活動計算書

自 平成31(2019)年4月1日
至 令和2(2020)年3月31日

勘定科目	
サービス活動収益	5,502
サービス活動費用	5,157
サービス活動増減差額	345
サービス活動外収益	25
サービス活動外費用	15
サービス活動外増減差額	10
経常増減差額	355
特別収益	14
特別費用	17
特別増減差額	△ 3
当期活動増減差額	352

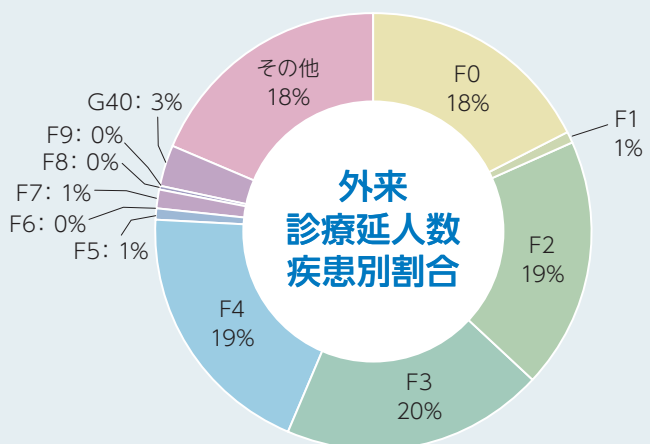
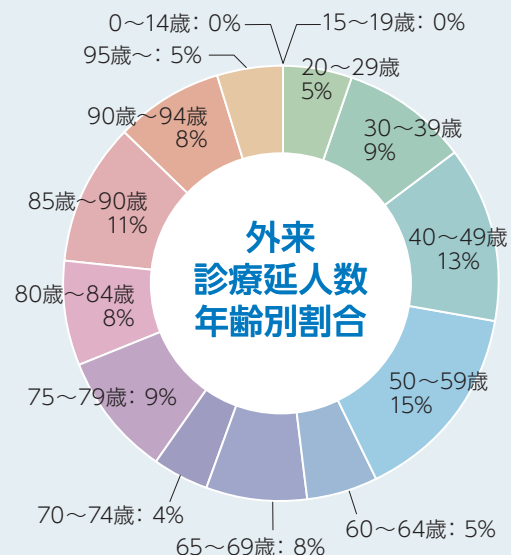
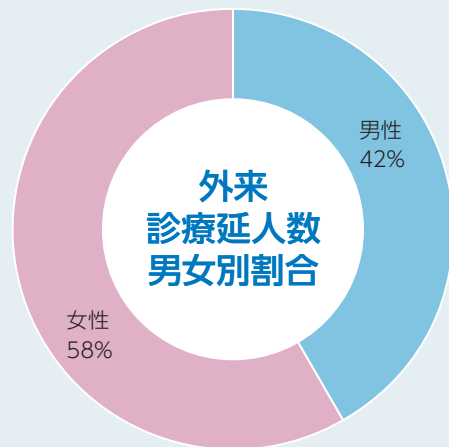
単位：百万円

セフィロト病院

外来患者数

診療実日数 (日)	289	
平均外来患者数/日 (人)	61.2	
診療実人数 (人)	2,019	
診療延人数 (人)	17,690	
性別 (人)	男性	7,457
	女性	10,233
年齢別 (人)	0~14歳	3
	15~19歳	43
	20~29歳	925
	30~39歳	1,667
	40~49歳	2,309
	50~59歳	2,645
	60~64歳	938
	65~69歳	1,321
	70~74歳	739
	75~79歳	1,620
	80~84歳	1,378
	85~89歳	1,864
	90~94歳	1,422
95歳~	816	
科別 (人)	精神科	15,672
	内科	1,695
	認知症疾患医療センター	323
疾患別 (人)	F0	3,101
	F1	188
	F2	3,263
	F3	3,459
	F4	3,407
	F5	163
	F6	8
	F7	226
	F8	49
	F9	1
	G40	573
	その他	3,252

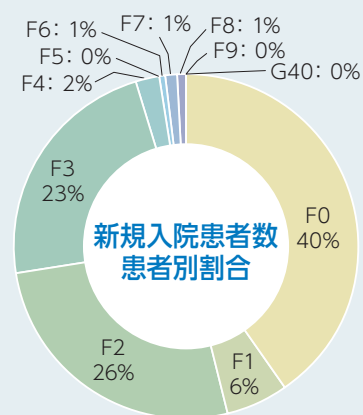
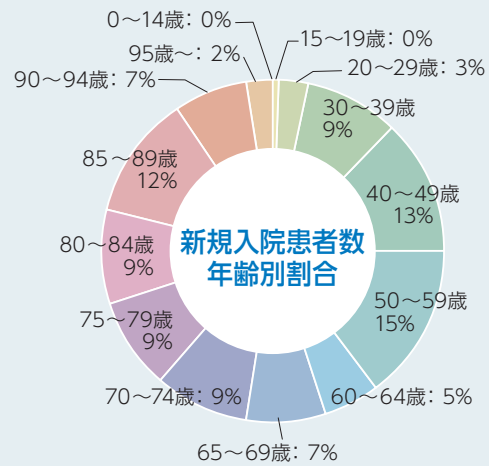
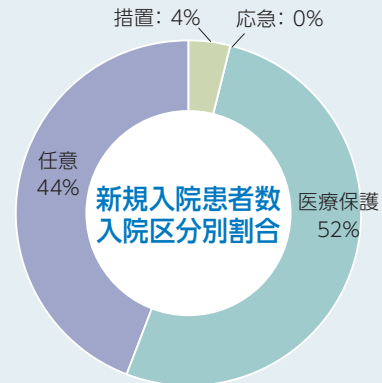
- F0: 症状性を含む器質性精神障害
- F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害
- F2: 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害
- F3: 気分(感情)障害
- F4: 精神症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
- F5: 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
- F6: 成人の人格および行動の障害
- F7: 精神遅滞
- F8: 心理的発達障害
- F9: 小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害
- G40: てんかん



セフィロト病院

入院患者数

入院患者延人数 (人)	61,993	
病棟別	精神一般病棟 (人)	18,424
	精神療養病棟 (人)	21,962
	認知症治療病棟 (人)	21,607
平均入院患者数/日 (人)	169.4	
病棟別	精神一般病棟 (人)	50.3
	精神療養病棟 (人)	60.0
	認知症治療病棟 (人)	59.0
病床利用率 (%)	94.6	
平均在院日数 (日)	363	
病棟別	精神一般病棟 (人)	104
	精神療養病棟 (人)	1,996
	認知症治療病棟 (人)	343
新規入院患者数 (人)	171	
入院形態	措置 (人)	7
	応急 (人)	0
	医療保護 (人)	89
	任意 (人)	75
年齢別 (人)	0~14歳	0
	15~19歳	1
	20~29歳	5
	30~39歳	15
	40~49歳	22
	50~59歳	25
	60~64歳	9
	65~69歳	13
	70~74歳	15
	75~79歳	15
	80~84歳	15
	85~89歳	20
	90~94歳	12
	95歳~	4
疾患別 (人)	F0	69
	F1	10
	F2	45
	F3	39
	F4	4
	F5	0
	F6	1
	F7	2
	F8	1
	F9	0
G40	0	
新規退院患者数/年 (人)	170	



- F0 : 症状性を含む器質性精神障害
- F1 : 精神作用物質使用による精神および行動の障害
- F2 : 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害
- F3 : 気分(感情)障害
- F4 : 精神症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
- F5 : 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
- F6 : 成人の人格および行動の障害
- F7 : 精神遅滞
- F8 : 心理的発達障害
- F9 : 小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害
- G40 : てんかん

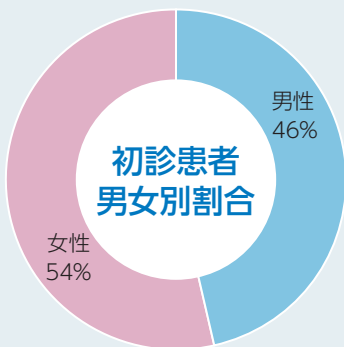
セフィロト病院

認知症疾患医療センター

1. 初診患者数

男性	71
女性	82
合計	153

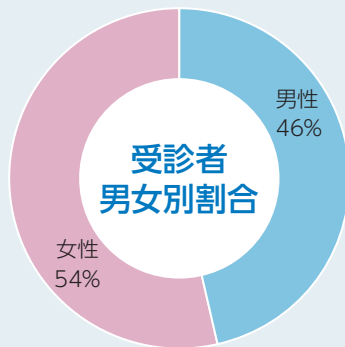
(単位:人)



2. 初診者延べ数

男性	150
女性	173
合計	323

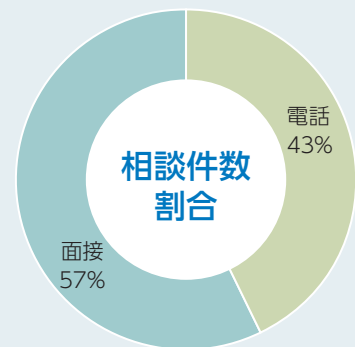
(単位:人)



3. 相談件数

電話	276
面接	369
合計	645

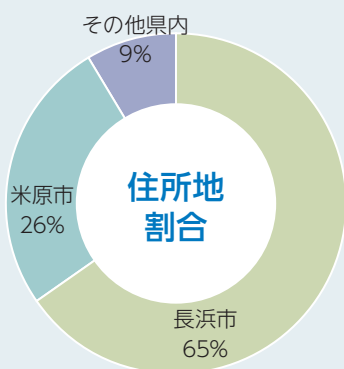
(単位:件)



4. 初診患者の住所地

長浜市	100
米原市	40
その他県内	13
合計	153

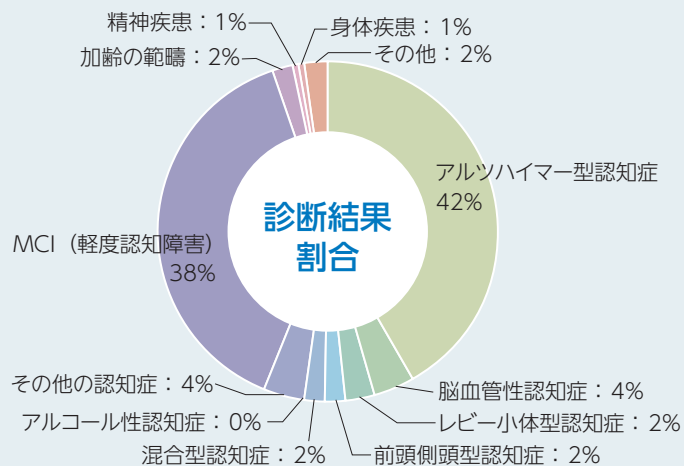
(単位:人)



5. 初診患者の診断結果

アルツハイマー型認知症	64
脳血管性認知症	6
レビー小体型認知症	4
前頭側頭型認知症	3
混合型認知症	3
アルコール性認知症	0
その他の認知症	6
MCI (軽度認知障害)	59
加齢の範疇	3
精神疾患	1
身体疾患	1
その他	3
合計	153

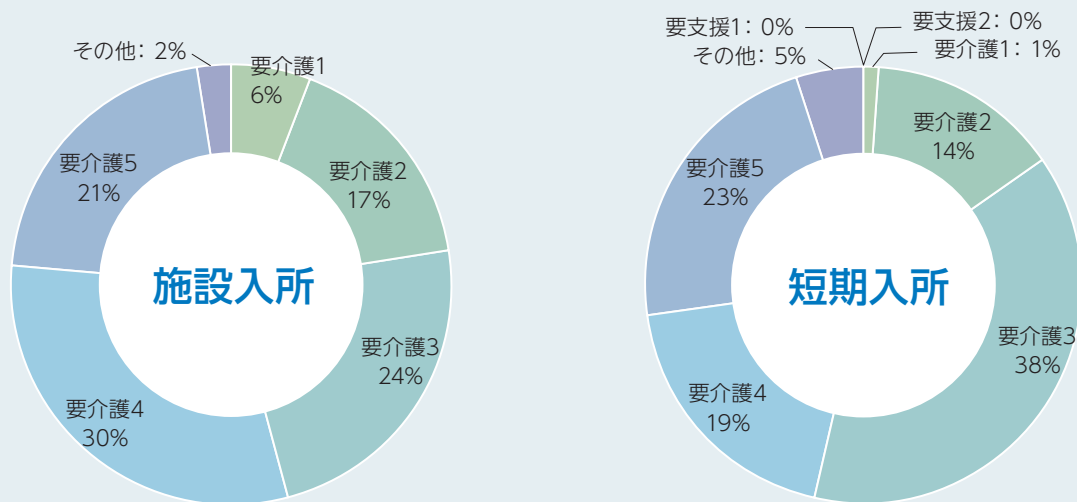
(単位:人)



入所・短期入所 / 定員 (104人)

		施設入所	短期入所
延入所者数(人)		35,315	3,201
要介護度別(人)	要支援 1	—	0
	要支援 2	—	0
	要介護 1	2,126	37
	要介護 2	5,826	457
	要介護 3	8,308	1,224
	要介護 4	10,743	617
	要介護 5	7,453	714
	その他	859	152
平均入所者数/日(人)		96.48	8.74
利用率(%)		92.77	8.40
平均要介護度		3.39	3.38

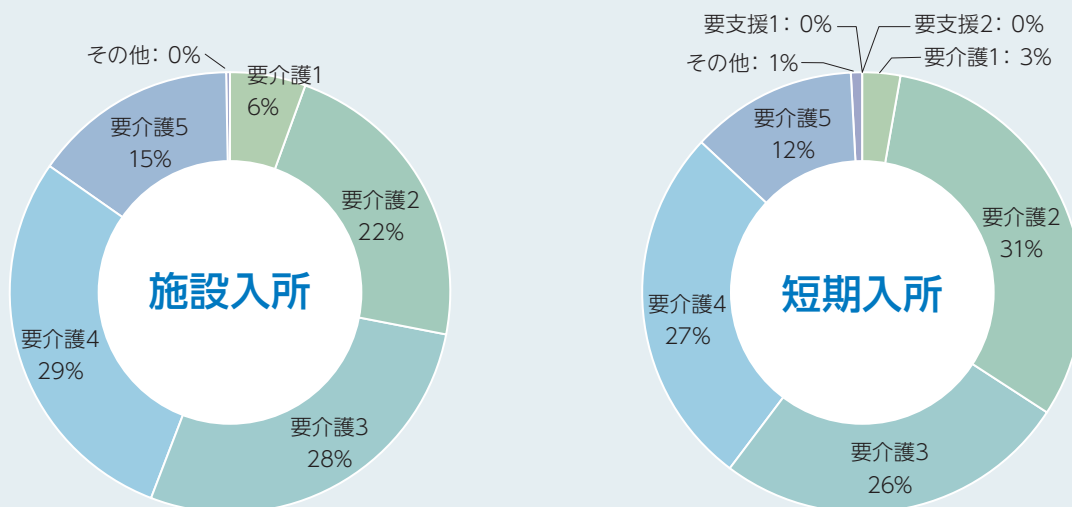
延入所者数 要介護度割合



入所・短期入所 / 定員 (130人)

	施設入所	短期入所
延入所者数(人)	43,077	3,171
要介護度別(人)	要支援 1	0
	要支援 2	0
	要介護 1	95
	要介護 2	995
	要介護 3	822
	要介護 4	851
	要介護 5	388
その他	58	20
平均入所者数/日(人)	117.69	8.66
利用率(%)	90.54	6.66
平均要介護度	3.24	3.13

延入所者数 要介護度割合



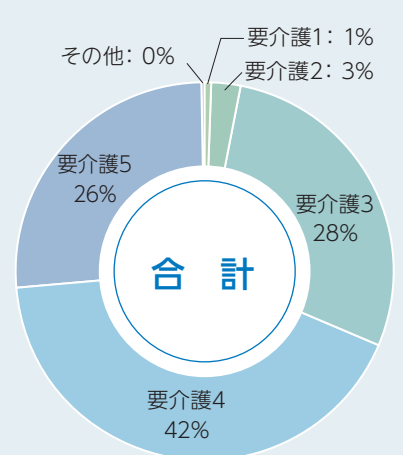
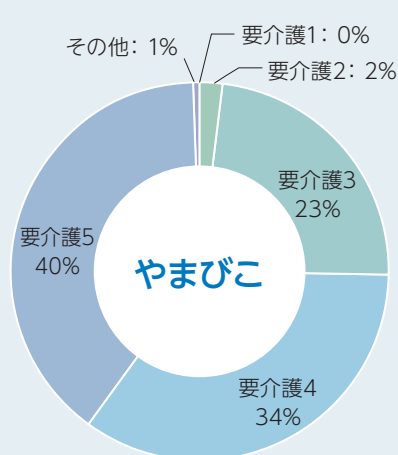
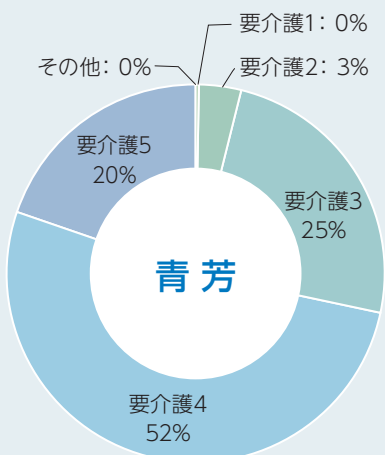
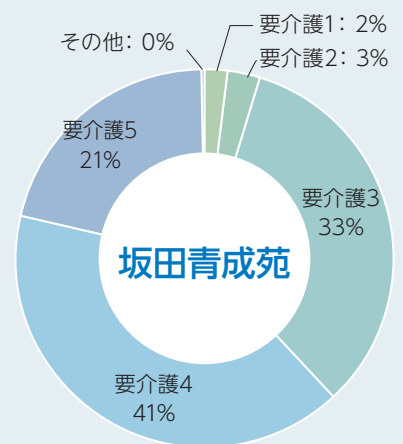
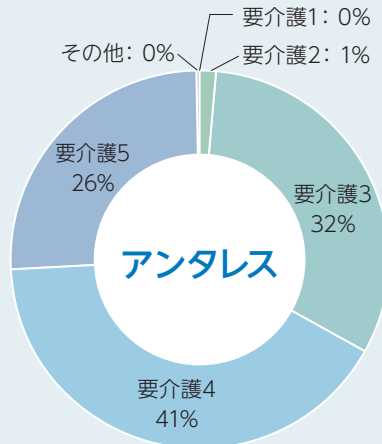
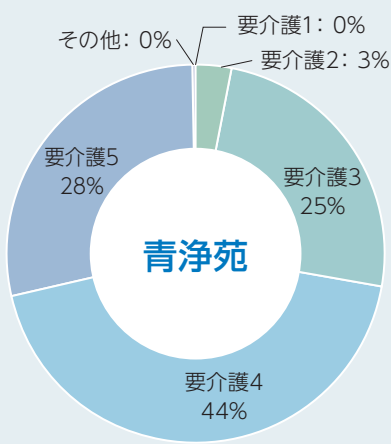
入所

特別養護老人ホーム

入所

	青浄苑	アンタレス	坂田青成苑	青 芳	やまびこ	合 計
入所定員(人)	104	70	100	54	50	378
延入所者数(人)	36,613	25,187	36,002	18,792	17,667	134,261
要介護度別(人)	要介護 1	0	0	732	91	823
	要介護 2	1,153	366	1,067	641	3,594
	要介護 3	9,070	8,021	11,988	4,617	37,843
	要介護 4	15,958	10,324	14,564	9,754	56,688
	要介護 5	10,370	6,446	7,621	3,689	35,131
	その他	62	30	30	0	60
平均入所者数/日(人)	100.04	68.82	98.37	51.34	48.27	366.83
利用率(%)	96.49	98.31	98.37	95.66	96.54	97.05
平均要介護度	3.97	3.91	3.76	3.87	4.12	3.91

施設別 要介護度割合



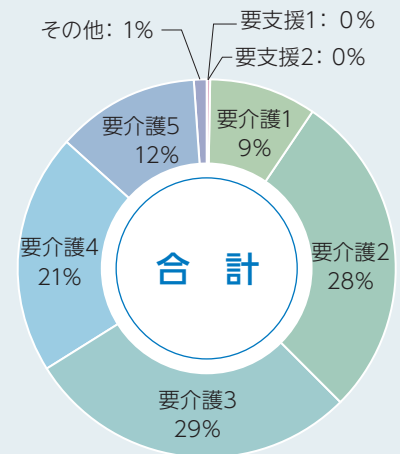
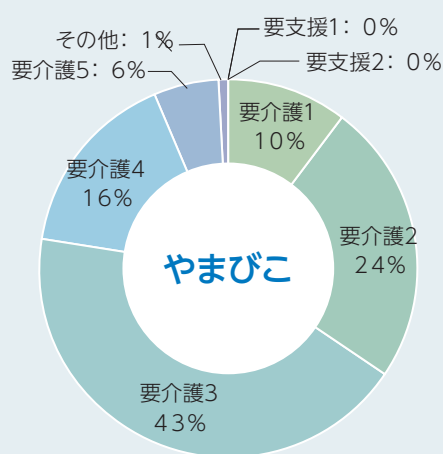
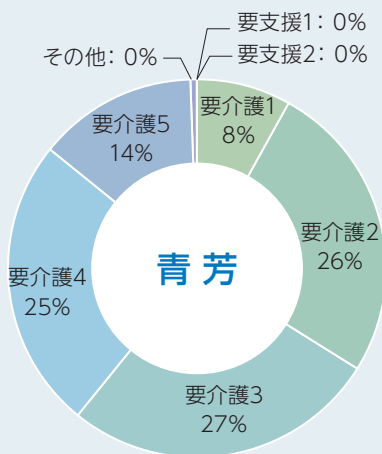
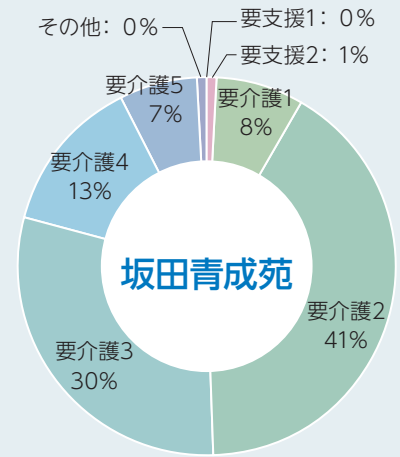
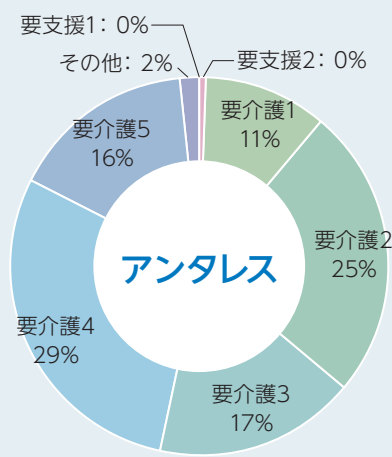
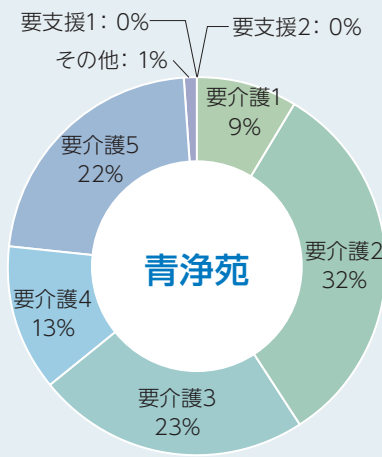
特別養護老人ホーム

入所

短期入所

	青浄苑	アンタレス	坂田青成苑	青 芳	やまびこ	合 計
入所定員(人)	13	20	10	16	20	79
延入所者数(人)	3,911	7,302	3,848	6,420	7,382	28,863
要介護度別(人)	要支援 1	0	9	0	0	9
	要支援 2	0	37	34	2	77
	要介護 1	345	772	295	519	2,690
	要介護 2	1,262	1,824	1,583	1,655	8,111
	要介護 3	913	1,266	1,142	1,747	8,248
	要介護 4	489	2,117	515	1,598	5,900
	要介護 5	868	1,165	257	864	3,565
	その他	34	112	22	35	60
平均入所者数/日(人)	10.69	19.95	10.51	17.54	20.17	78.86
利用率(%)	80.18	99.75	105.14	107.43	100.85	99.82
平均要介護度	3.07	3.15	2.70	3.10	2.82	2.98

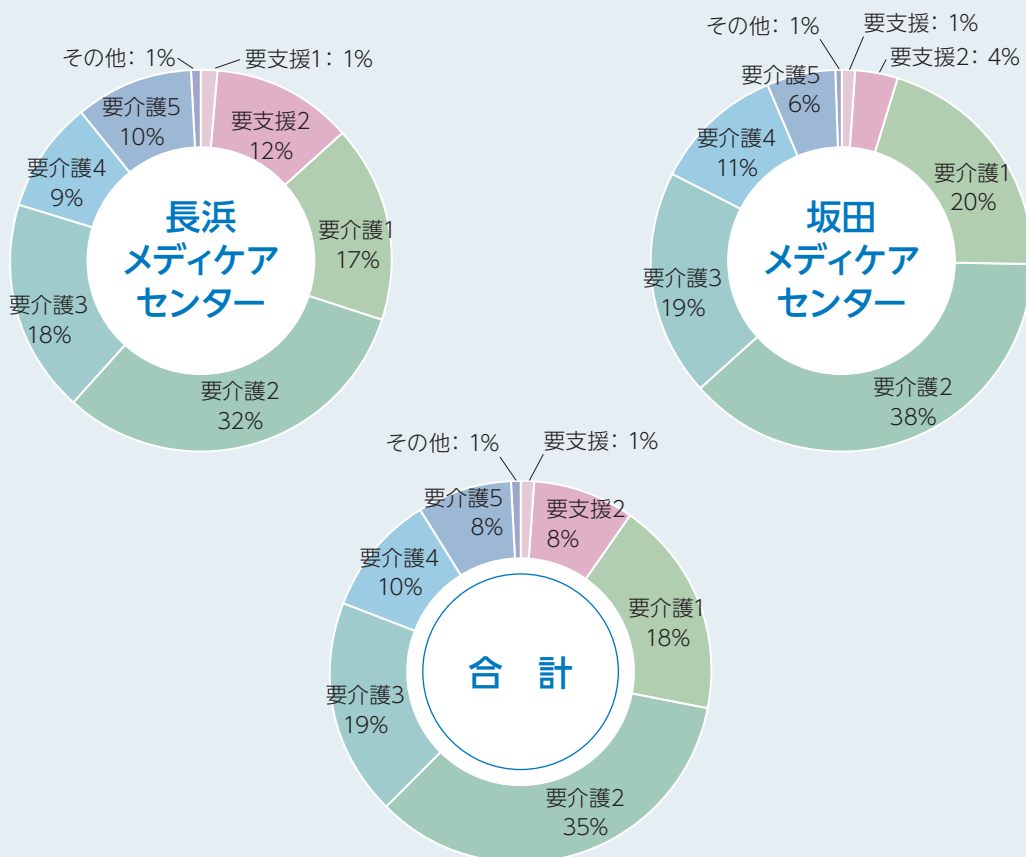
施設別 要介護度割合



通所リハビリテーション

	長浜メディケアセンター	坂田メディケアセンター	合計	
定員(人)	40	40	80	
稼働日数	307	307	614	
延利用者数(人)	7,400	5,938	13,338	
要介護度別(人)	要支援 1	107	78	185
	要支援 2	898	218	1,116
	要介護 1	1,229	1,216	2,445
	要介護 2	2,337	2,258	4,595
	要介護 3	1,334	1,143	2,477
	要介護 4	696	655	1,351
	要介護 5	752	342	1,094
	その他	47	28	75
平均利用者数/日(人)	24.10	19.34	21.72	
利用率(%)	60.26	48.36	54.31	
平均要介護度	2.37	2.33	2.35	

施設別 要介護度割合



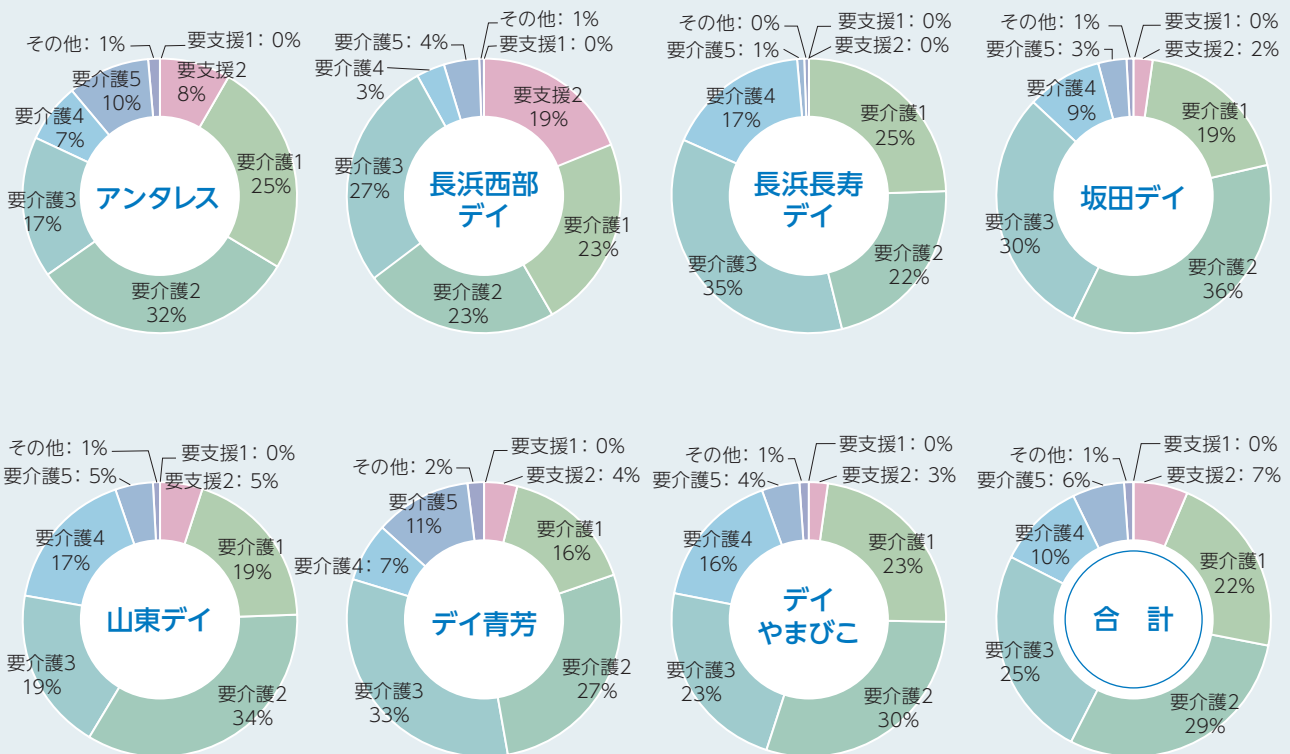
特別養護老人ホーム

通所

通所介護

	アンタレス	長浜西部デイ	長浜長寿デイ	坂田デイ	山東デイ	デイ青芳	デイやまびこ	合計
定員(人)	40	40	12	30	30	40	40	232
延利用者数(人)	9,697	6,978	3,031	4,910	5,709	7,008	8,916	46,249
要介護度別(人)	要支援1	0	17	0	0	0	0	17
	要支援2	815	1,311	0	122	299	218	3,053
	要介護1	2,451	1,591	745	929	1,107	1,107	9,975
	要介護2	3,077	1,616	660	1,763	1,948	1,923	13,645
	要介護3	1,611	1,898	1,078	1,456	1,097	2,278	11,478
	要介護4	687	231	509	437	962	496	4,779
	要介護5	930	279	28	170	263	794	2,855
	その他	126	35	11	33	33	122	447
平均利用者数/日(人)	31.38	22.58	9.81	15.89	18.48	22.61	28.85	21.37
利用率(%)	78.45	56.46	81.74	52.97	61.59	56.52	72.14	64.48
平均要介護度	2.25	2.03	2.47	2.36	2.42	2.59	2.43	2.35

施設別 要介護度割合



訪問看護ステーション/ホームヘルパーステーション

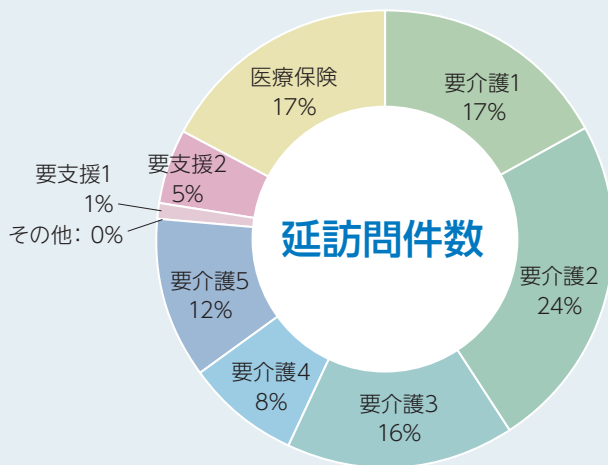
訪問看護ステーション 訪問件数

	延訪問件数
要介護1	1,774
要介護2	2,451
要介護3	1,670
要介護4	841
要介護5	1,181
その他	0
要支援1	112
要支援2	548
医療保険	1,755
令和元年度延件数	10,332

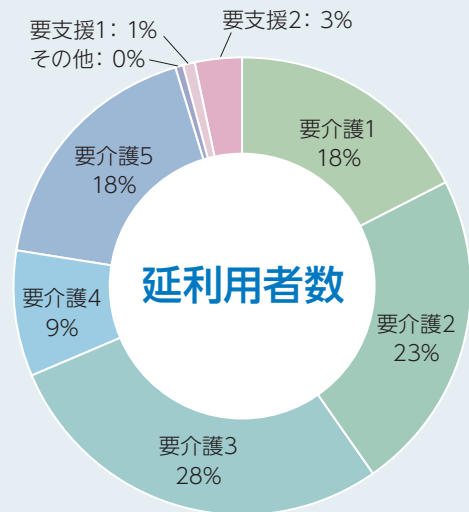
ホームヘルパーステーション 利用者数

	延利用者数
要介護1	5,227
要介護2	6,743
要介護3	8,400
要介護4	2,576
要介護5	5,340
その他	104
要支援1	258
要支援2	955
医療保険	—
令和元年度延件数	29,603

要介護度割合



要介護度割合

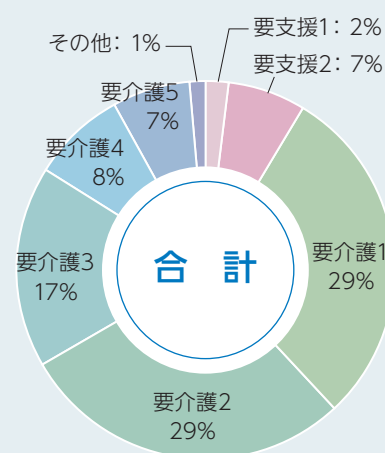
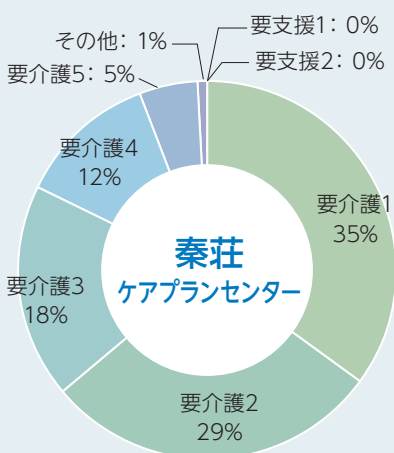
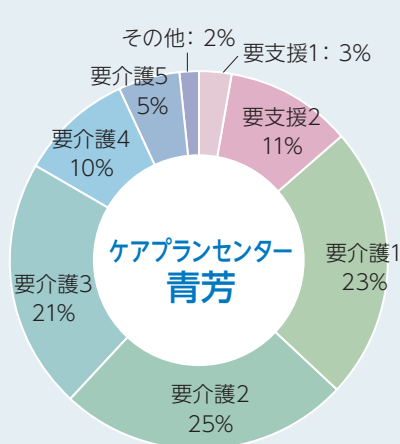
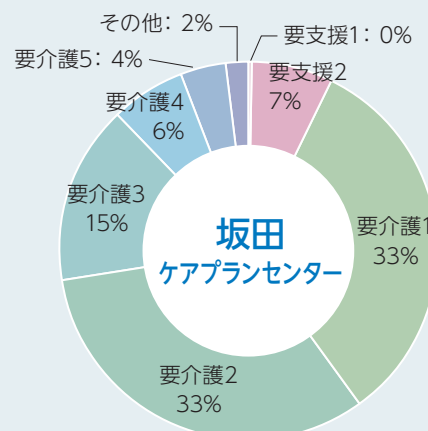
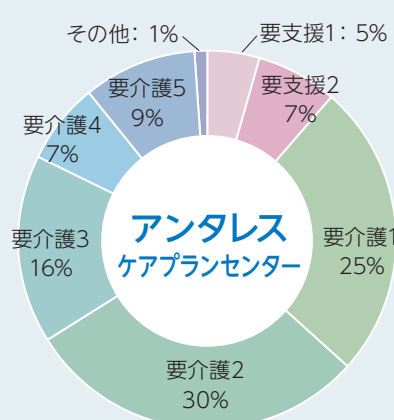
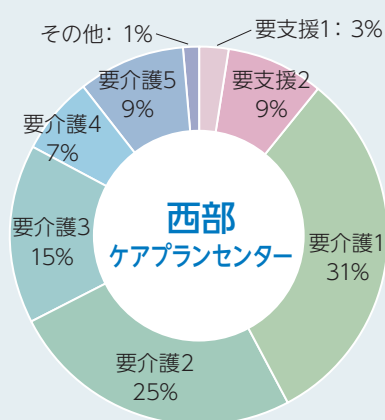


ケアプランセンター

ケアプラン作成件数

	西部 ケアプランセンター	アンタレス ケアプランセンター	坂田 ケアプランセンター	ケアプランセンター 青芳	秦荘 ケアプランセンター	合計
延件数	1,234	1,645	1,590	1,254	1,245	6,968
要支援1	31	76	5	36	0	148
要支援2	106	114	110	138	0	468
要介護1	386	415	522	292	436	2,051
要介護2	310	485	517	311	362	1,985
要介護3	191	267	245	269	227	1,199
要介護4	83	114	100	122	149	568
要介護5	113	156	64	67	62	462
その他	14	18	27	19	9	87
平均要介護度	2.13	2.21	1.98	2.18	2.21	2.14

施設別 要介護度割合

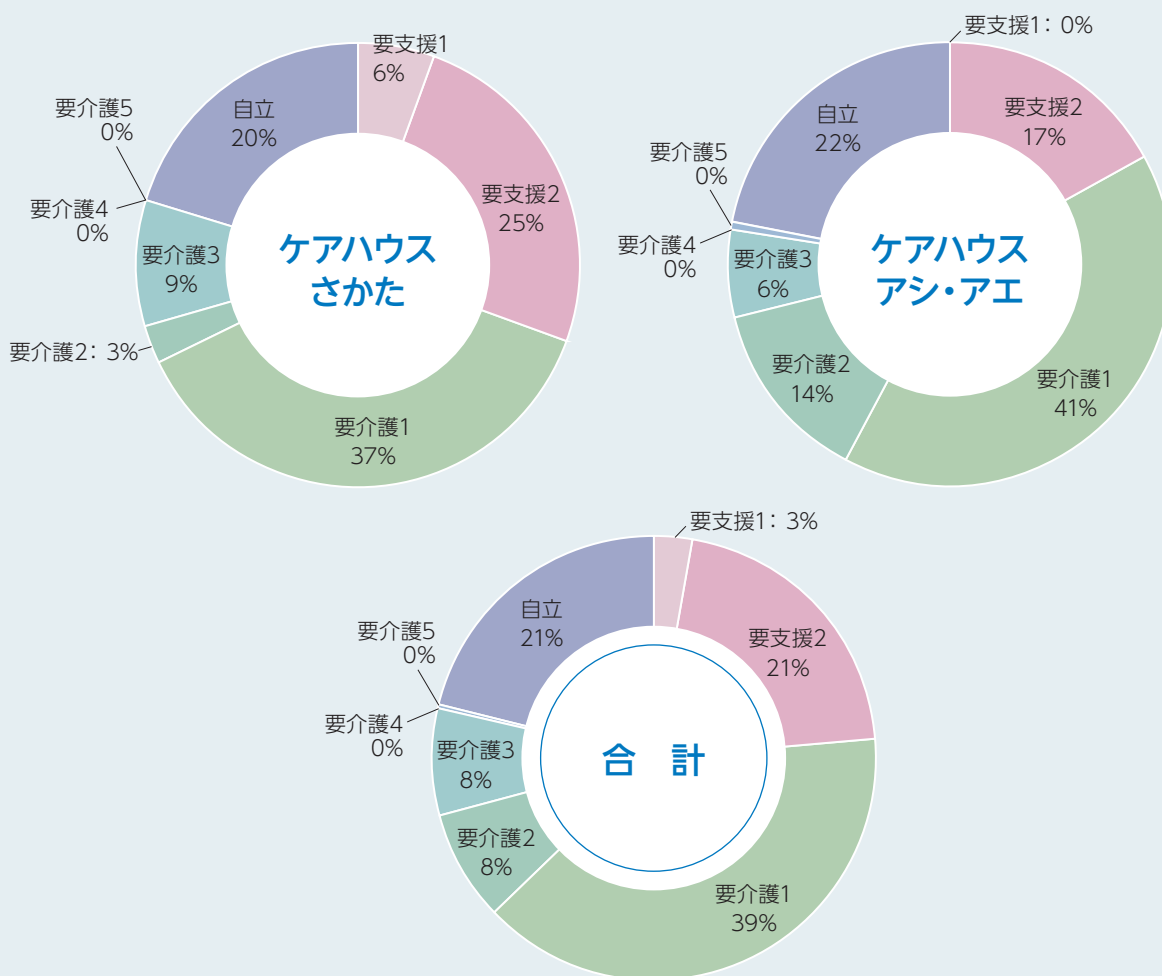


ケアハウス

延入居者数

	ケアハウスさかた	ケアハウス アシ・アエ	合計
要支援1	306	0	306
要支援2	1,366	922	2,288
要介護1	2,034	2,207	4,241
要介護2	144	730	874
要介護3	506	344	850
要介護4	0	0	0
要介護5	0	21	21
自立	1,098	1,183	2,281
延件数	5,454	5,407	10,861

施設別 要介護度割合

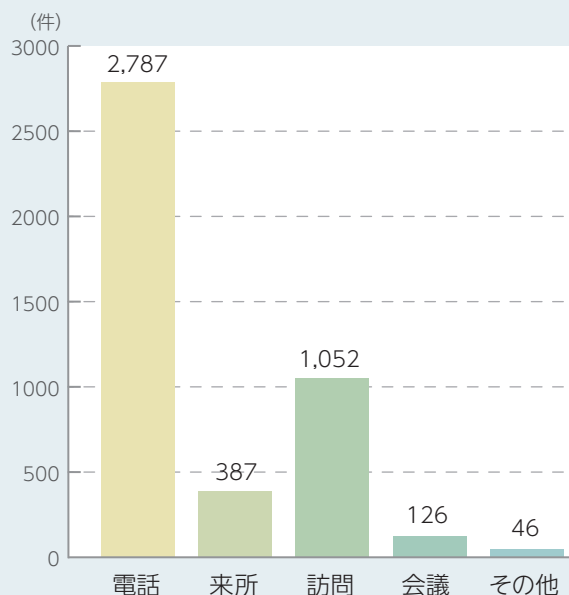


南長浜地域包括支援センター

総合相談支援事業の状況

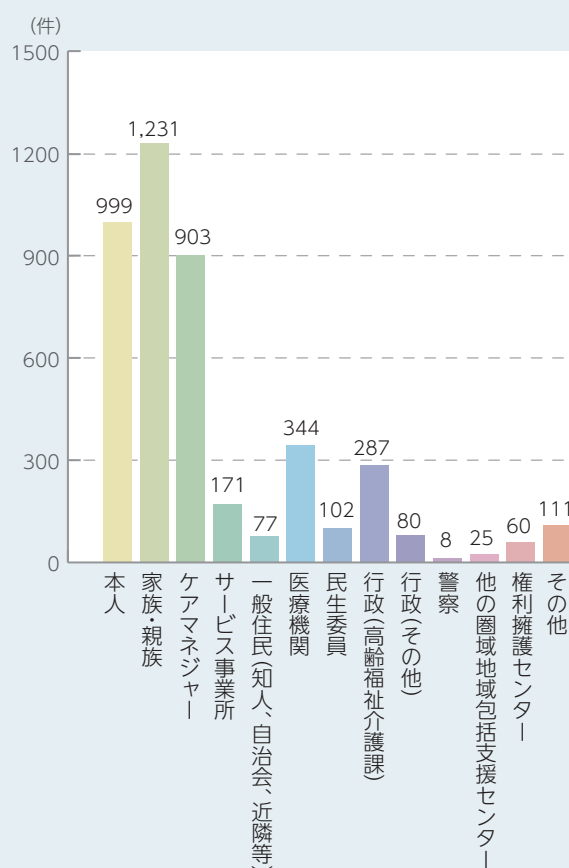
相談形態

	(件数)
電話	2,787
来所	387
訪問	1,052
会議	126
その他	46
合計	4,398



相談相手の構成

	(件数)
本人	999
家族・親族	1,231
ケアマネジャー	903
サービス事業所	171
一般住民(知人、自治会、近隣等)	77
医療機関	344
民生委員	102
行政(高齢福祉介護課)	287
行政(その他)	80
警察	8
他の圏域地域包括支援センター	25
権利擁護センター	60
その他	111
合計	4398



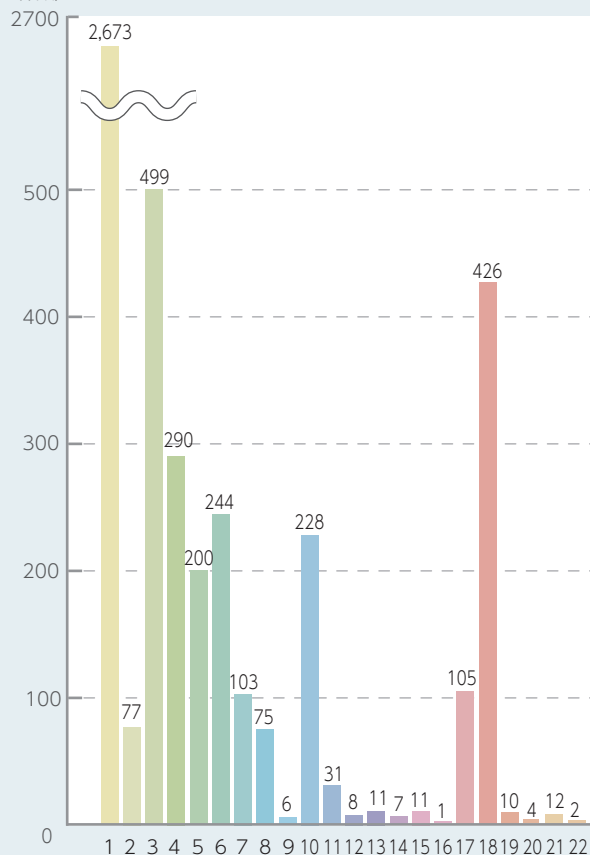
南長浜地域包括支援センター

相談・対応内容

(延べ件数)

1. 介護(介護保険を含む)に関する相談	2,673
2. 介護予防(総合事業を含む)に関する相談	77
3. 認知症に関する相談	499
4. 医療に関する相談	290
5. 施設・住居に関する相談	200
6. 虐待に関する相談	244
7. 権利擁護・成年後見に関する相談	103
8. 経済的な困窮等に関する相談	75
9. 苦情相談	6
10. 主任ケアマネ業務	228
11. 実態把握業務	31
12. 生活圏域個別ケア会議	8
13. その他関係者会議	11
14. 地域連携パス(大腿骨頸部骨折)	7
15. 地域連携パス(脳卒中)	11
16. その他の会議	1
17. 支援困難ケース(精神疾患)	105
18. 支援困難ケース(その他)	426
19. 運転免許に関する相談	10
20. 移動手段に関する相談	4
21. しょうがい福祉に関する相談	12
22. その他	2
合計	5,023

(延べ件数)

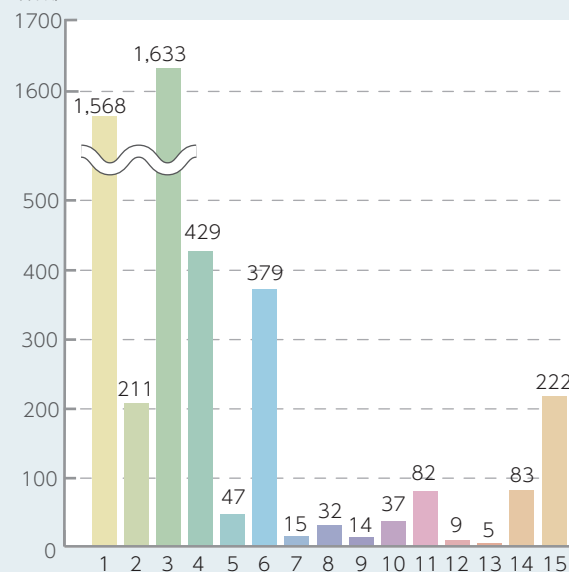


相談対応

(延べ件数)

1. 相談のみ	1,568
2. 情報提供	211
3. 連絡・調整	1,633
4. 家庭訪問	429
5. 確認	47
6. 介護保険サービス利用支援	379
7. 総合事業サービス利用支援	15
8. 住宅改修・福祉用具購入の支援	32
9. その他福祉サービス利用の支援	14
10. ケアマネ支援	37
11. 介護保険代行申請手続き	82
12. その他福祉サービス代行申請手続き	9
13. 取次・斡旋	5
14. その他会議	83
15. その他	222
合計	4,766

(延べ件数)



編集後記

令和元年度の年報が完成しました。

平成から令和へ年号が新しくなりましたが、青祥会年報も今回から、年報作成プロジェクトチームを発足させ発行体制を刷新するとともに、デザインも一新することにいたしました。

今回のデザインは、株式会社ヤマプラ様に制作を依頼し、ホームページ、法人紹介パンフレット、広報誌「かしよう」等と統一したデザインになっています。

新しい青祥会のイメージとして浸透していけばと期待しております。

この年報を通じて、青祥会職員が自らの活動を振り返り、次年度への発展に繋げていくことができればと願っております。また、関係機関、地域の皆様には、年報をご覧いただくことによって、当法人の現況、活動内容をより深くご理解いただければ幸いです。

法人の1年間の活動の軌跡となる年報が今後も継続的に発行され、法人内外の皆様にとって魅力ある冊子となるよう、職員一同、益々業務に邁進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

年報作成プロジェクトチーム

発行 令和3年11月
社会福祉法人 青祥会
令和元年度(2019年度)年報

編集 年報作成プロジェクトチーム

発行者 社会福祉法人 青祥会
理事長 畑下 嘉之
〒526-0823 滋賀県長浜市加田町3360
TEL 0749-68-4114
<http://www.seishokai.jp/official/>

印刷 株式会社ヤマプラ



社会福祉法人
青祥会